

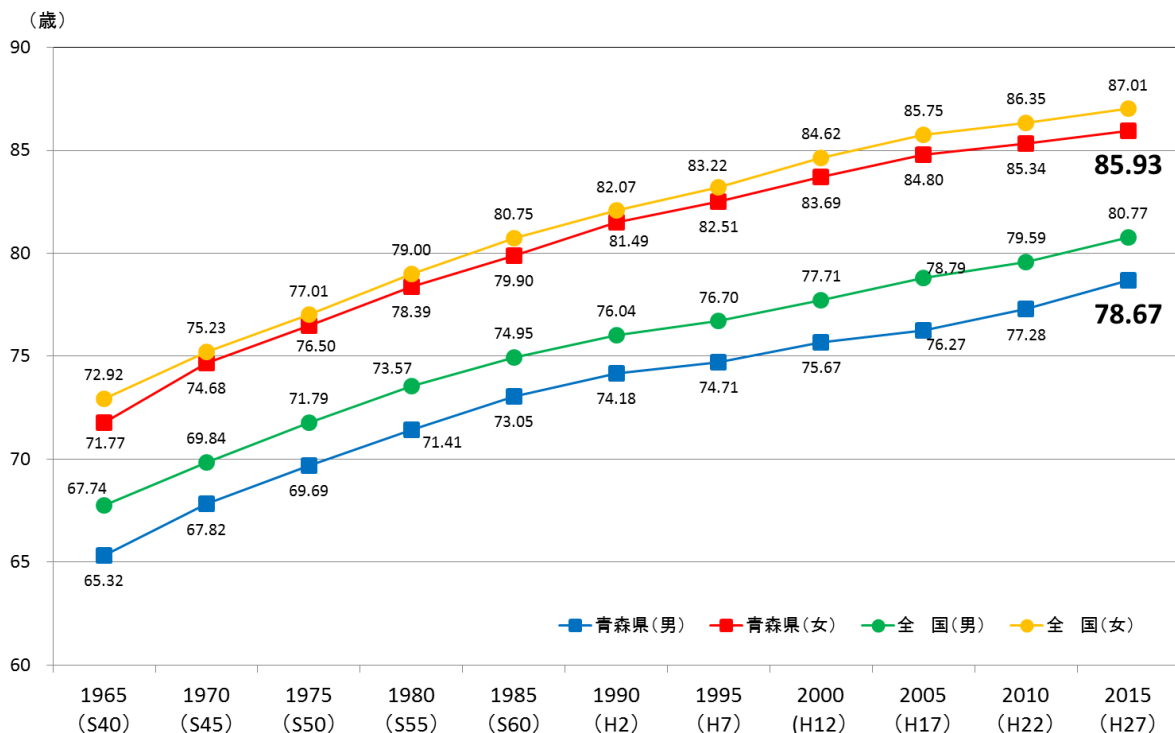
## 第4章 県民の健康の現状と課題

### 1 平均寿命と健康寿命

本県の平均寿命は、2015年（平成27年）で男性が78.67歳、女性85.93歳となっています。平均寿命は年々延びているものの、男女とも全国最下位となっており、全国と格差が依然としてあることが課題となっています。

一方、健康寿命は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されており、厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」によると、本県の健康寿命は、2016年（平成28年）で男性71.64歳（全国第34位）、女性75.14歳（全国第20位）となっています。今後の健康づくりの取組においては、平均寿命の延伸とともに、平均寿命と健康寿命との差の縮小も重要な視点の一つであり、その推移をみていくこととしています。

図1 平均寿命の推移



出典：都道府県別生命表

図2 都道府県別平均寿命の分布

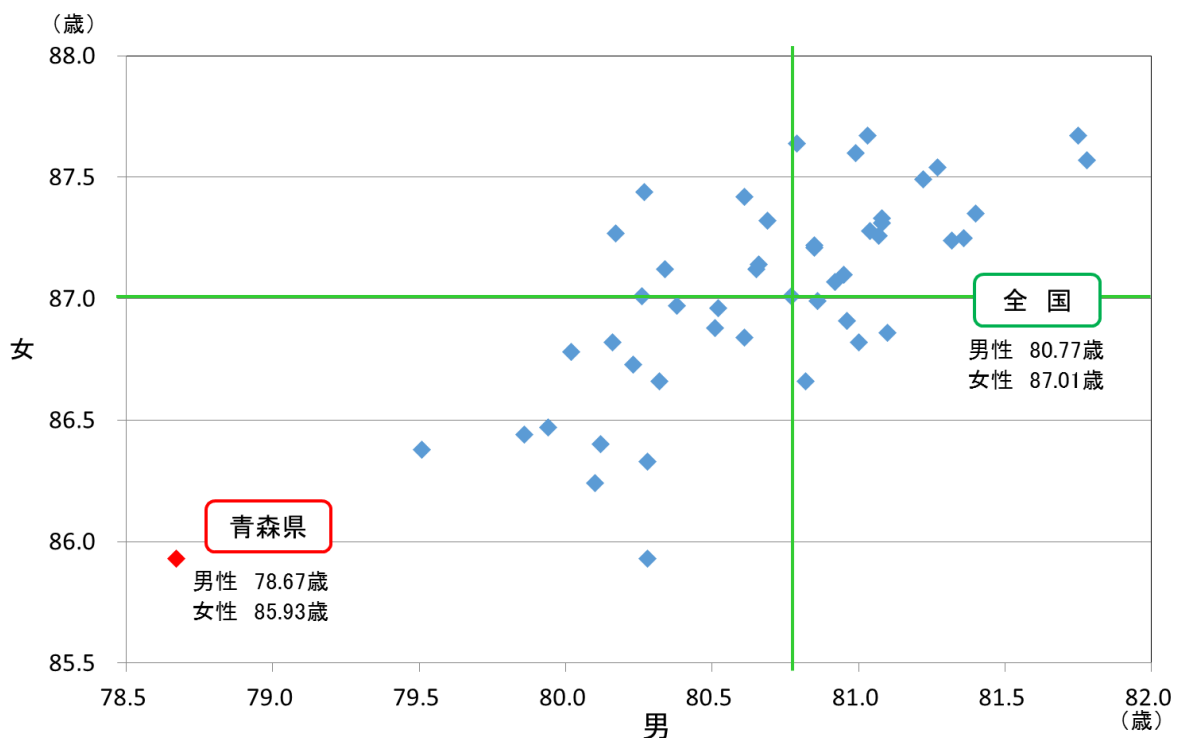


表1 健康寿命（2016年（平成28年））

	青森県	全国
男性（平均寿命との差）	71.64 (7.03)	72.14 (8.63)
女性（平均寿命との差）	75.14 (10.79)	74.79 (12.22)

出典：厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」

## 2 主要死因等

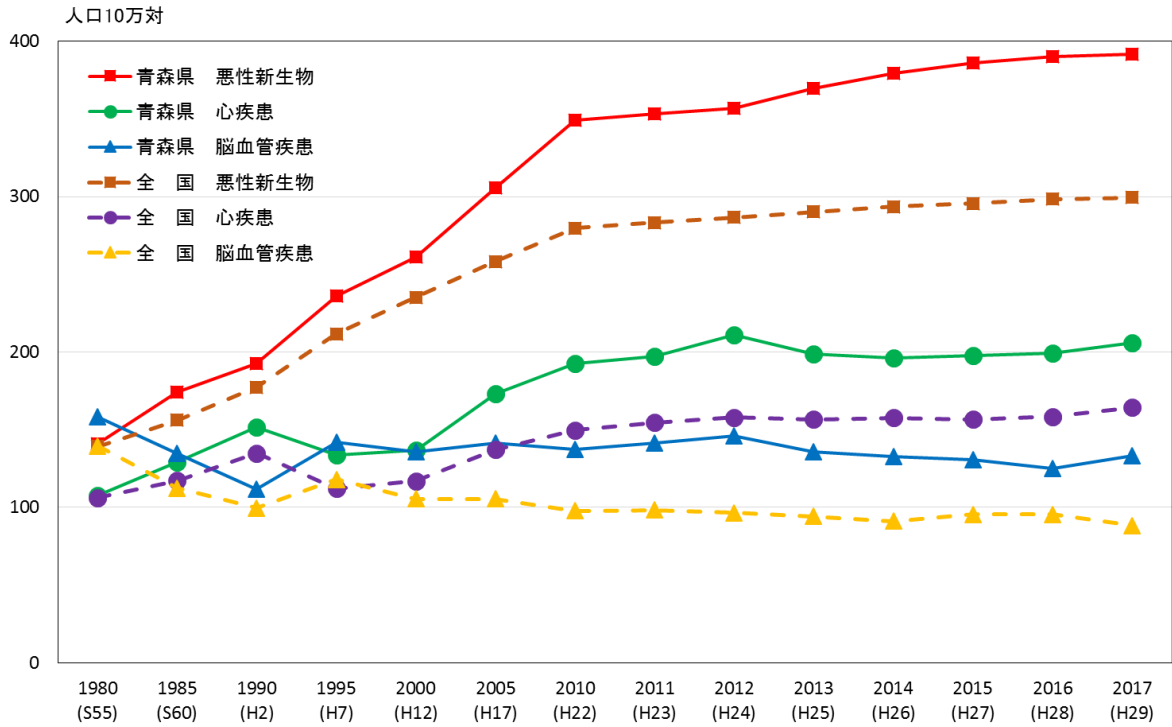
### (1) 三大死因

疾病別死因順位は、2000年（平成12年）以降、概ね第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位が脳血管疾患となっており、三大死因の死亡率は、いずれも全国平均より高い割合で推移しています。

心疾患や脳血管疾患は、高血圧や糖尿病などが要因で引き起こされることが多く、予防のための生活習慣の改善や発症後の適切な治療の継続などを適切に実行していくための基盤となる県民のヘルスリテラシーを向上させることが重要です。

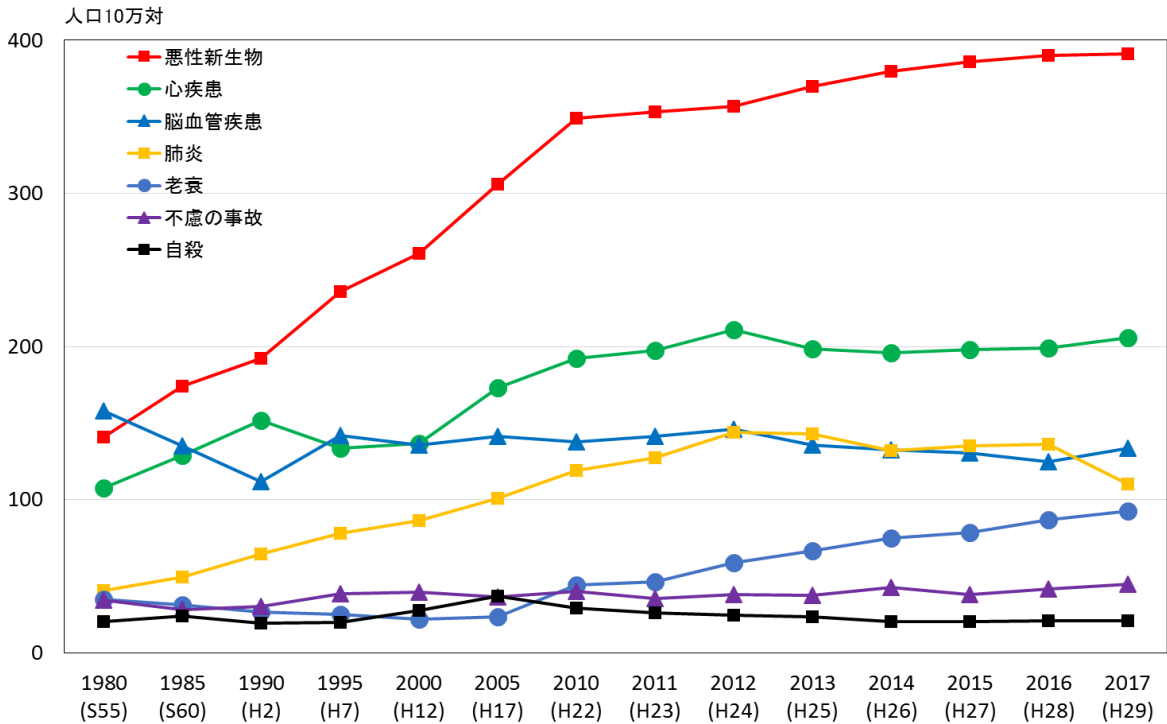
また、2017年（平成29年）の三大死因の死亡率を年齢階級（10歳階級）別に全国と比較してみると、男性は三大死因全てが50歳代から、女性は悪性新生物が30歳代から、脳血管疾患が60歳代から全国との差が顕著になっています。さらに、三大死因について、青森県の2017年（平成29年）の死亡率が仮に全国並であったと仮定した場合の死亡数（期待死亡数）に対して、実際の死亡数がどの程度多くなっているか（超過死亡数）を算出したところ、30歳代以降のほとんどの年代で超過が見られており、働き盛り世代での健康づくり対策が重要であることがわかります。

図3 三大死因死亡率（人口10万対）の推移（全国・青森県）



出典：人口動態統計

図4 主要死因死亡率（人口10万対）の推移（青森県）



出典：人口動態統計

表2 2017年(平成29年)主な死因・年齢階級(10歳階級)別死亡率(人口10万対)

			0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
総数	男性	青森県	44.4	17.2	74.5	104.5	175.0	572.3	1,397.0	3,076.8	10,672.1
		全国	29.3	18.8	49.4	70.6	153.2	395.7	1,109.9	2,630.8	9,565.1
		差	<b>15.1</b>	-1.5	<b>25.1</b>	<b>34.0</b>	<b>21.8</b>	<b>176.6</b>	<b>287.1</b>	<b>446.0</b>	<b>1,107.0</b>
	女性	青森県	25.0	9.1	26.1	60.0	110.5	254.5	519.6	1,257.8	7,423.6
		全国	26.6	9.3	22.1	38.8	91.7	203.4	465.8	1,165.5	7,051.5
		差	-1.6	-0.2	4.0	<b>21.2</b>	<b>18.7</b>	<b>51.2</b>	<b>53.9</b>	<b>92.2</b>	<b>372.1</b>
悪性新生物	男性	青森県	0.0	0.0	7.8	19.7	35.7	198.8	629.0	1,244.9	2,767.4
		全国	1.6	2.2	4.1	9.8	33.7	134.5	501.2	1,092.3	2,366.6
		差	-1.6	-2.2	3.8	9.9	2.0	<b>64.3</b>	<b>127.8</b>	<b>152.6</b>	<b>400.9</b>
	女性	青森県	0.0	1.8	2.2	29.2	67.4	140.9	265.2	498.9	1,288.8
		全国	1.5	1.8	3.4	14.5	46.3	116.2	251.1	462.9	1,152.1
		差	-1.5	0.1	-1.2	<b>14.8</b>	<b>21.1</b>	<b>24.7</b>	<b>14.1</b>	<b>35.9</b>	<b>136.7</b>
心疾患(高血圧性を除く)	男性	青森県	0.0	3.4	2.0	7.6	31.0	94.0	173.0	359.4	1,511.6
		全国	0.8	0.9	2.7	7.0	23.2	60.0	146.8	332.5	1,417.0
		差	-0.8	2.6	-0.8	0.6	7.7	<b>34.0</b>	<b>26.2</b>	<b>26.9</b>	<b>94.6</b>
	女性	青森県	0.0	0.0	10.9	0.0	2.3	21.6	47.3	158.9	1,366.3
		全国	0.8	0.6	1.0	2.1	6.2	14.1	42.8	154.7	1,313.3
		差	-0.8	-0.6	9.9	-2.1	-3.9	7.5	4.5	4.1	<b>53.0</b>
脳血管疾患	男性	青森県	0.0	1.7	3.9	6.1	17.9	51.8	100.0	263.8	1,088.4
		全国	0.1	0.2	0.7	3.9	15.3	33.1	76.9	196.0	766.6
		差	-0.1	1.5	3.2	2.2	2.6	<b>18.8</b>	<b>23.1</b>	<b>67.8</b>	<b>321.8</b>
	女性	青森県	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	21.6	43.8	103.3	803.4
		全国	0.1	0.2	0.5	1.6	7.1	14.5	30.9	90.2	651.1
		差	-0.1	-0.2	-0.5	-1.6	3.3	7.1	<b>12.8</b>	<b>13.2</b>	<b>152.3</b>

※太枠は全国との差が10(人/10万人)以上

出典：2017年(平成29年)人口動態統計を用いて、がん・生活習慣病対策課が作成

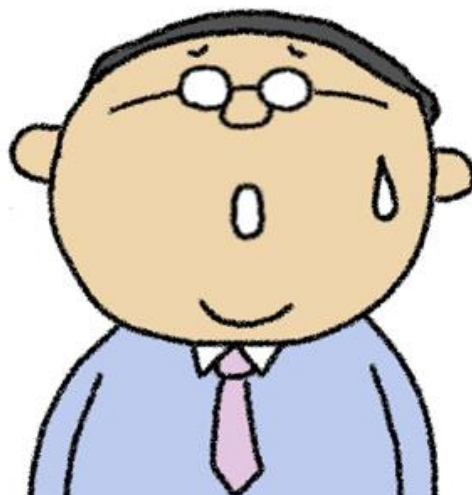
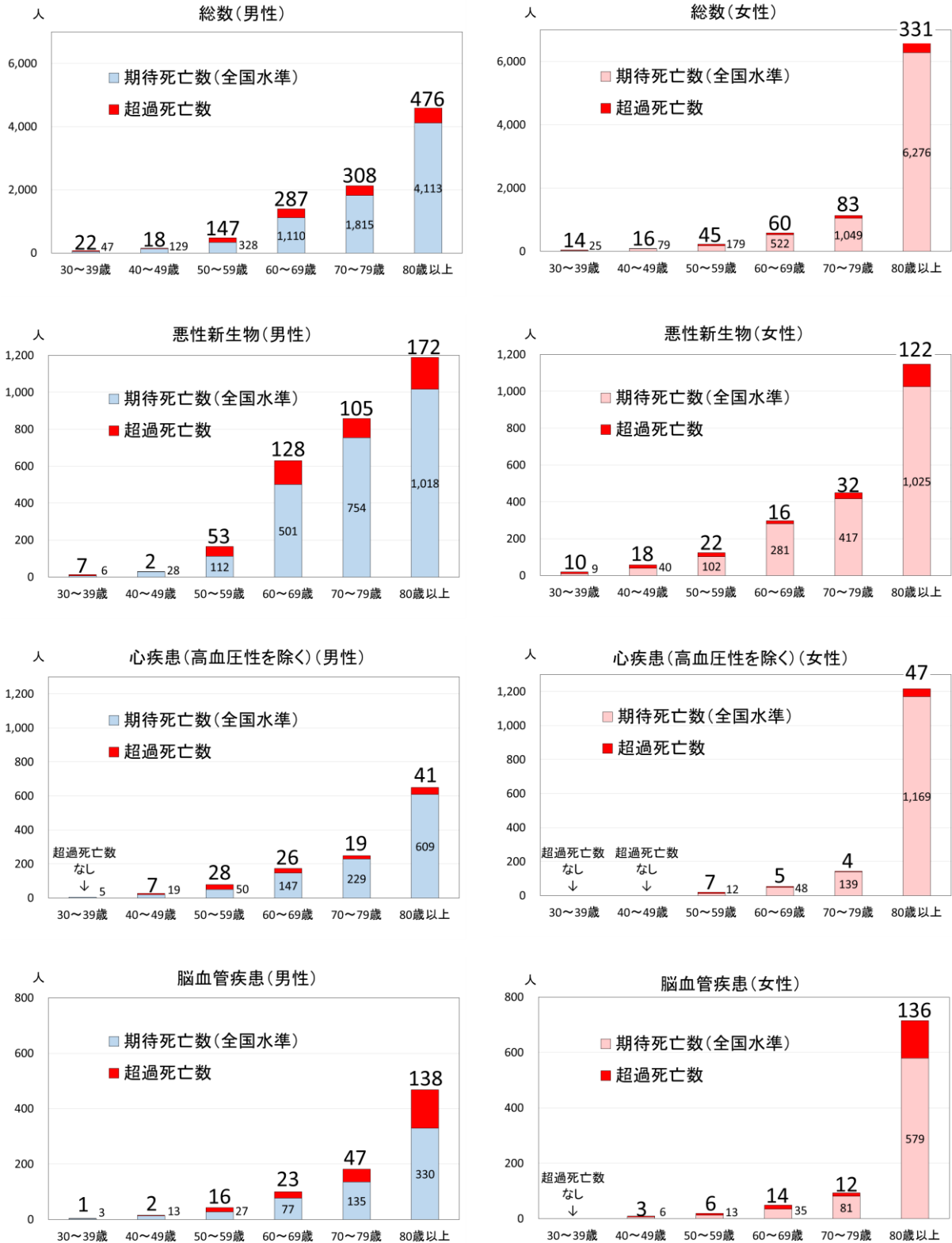


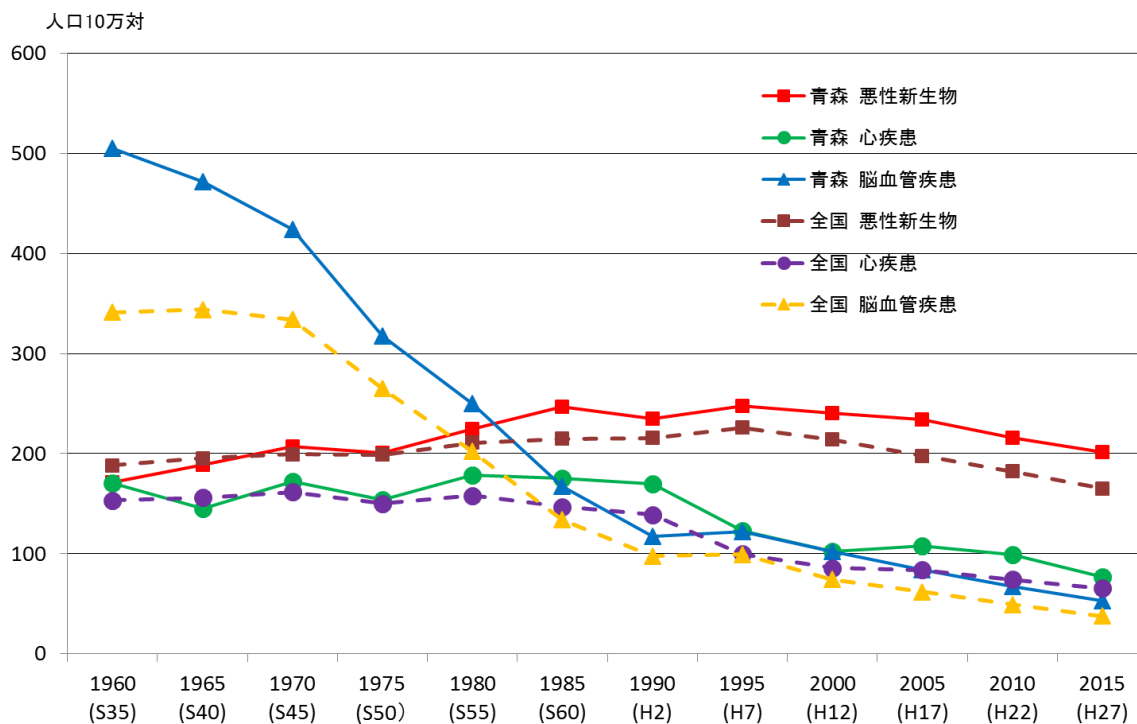
図5 2017年（平成29年）主な死因別の青森県の過剰死亡数

$\text{超過死亡数} = \text{青森県の実際の死亡数} - \text{期待死亡数} (\ast)$   
 $\text{期待死亡数} = \text{青森県の人口} \times \text{全国の死亡率} \div 10 \text{万人}$   
 （青森県の死亡率が全国水準並みと仮定した場合の死亡数）



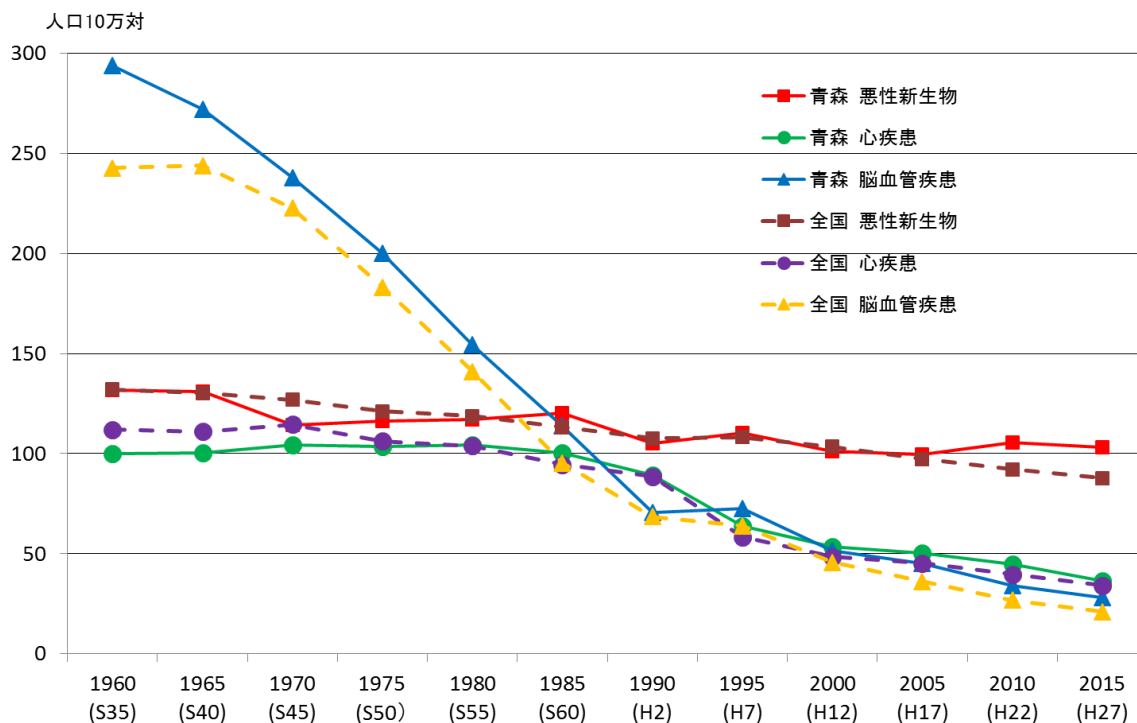
出典：2017年（平成29年）人口動態統計を用いて、がん・生活習慣病対策課が作成

図6 3大死因の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（男性）



出典：人口動態統計

図7 3大死因の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（女性）



出典：人口動態統計

このように、本県で三大疾病による死亡率が高い状況が続いていることの大きな要因として、これらの疾病のリスクとなる高血圧や糖尿病などの管理が十分行われているとは言い難いこと、また、生活習慣のうち、三大疾病や、疾病のリスクと関連の深い「喫

煙」や「過度な飲酒」のほか、不適切な食生活や運動不足からくる肥満などの生活習慣の問題が挙げられます。

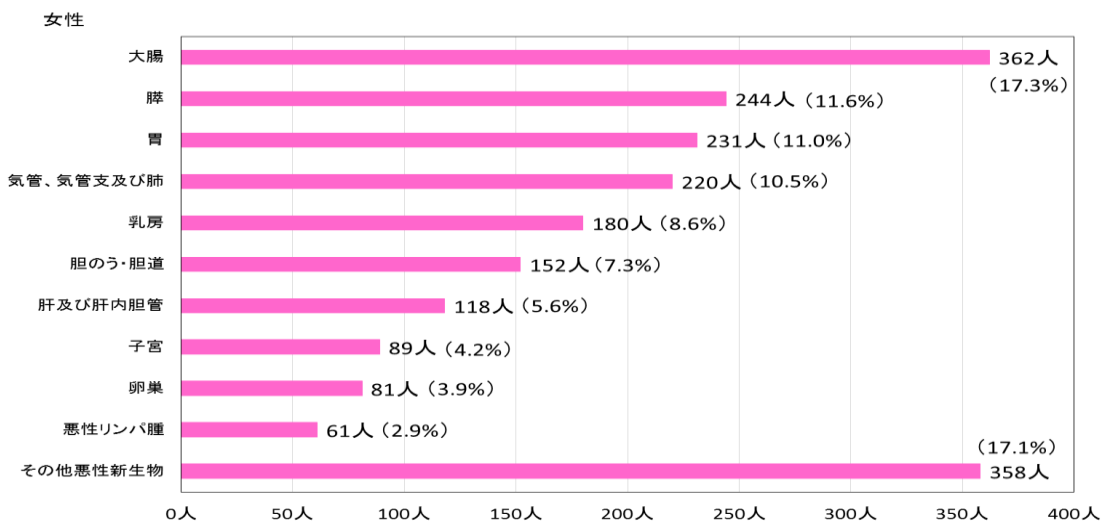
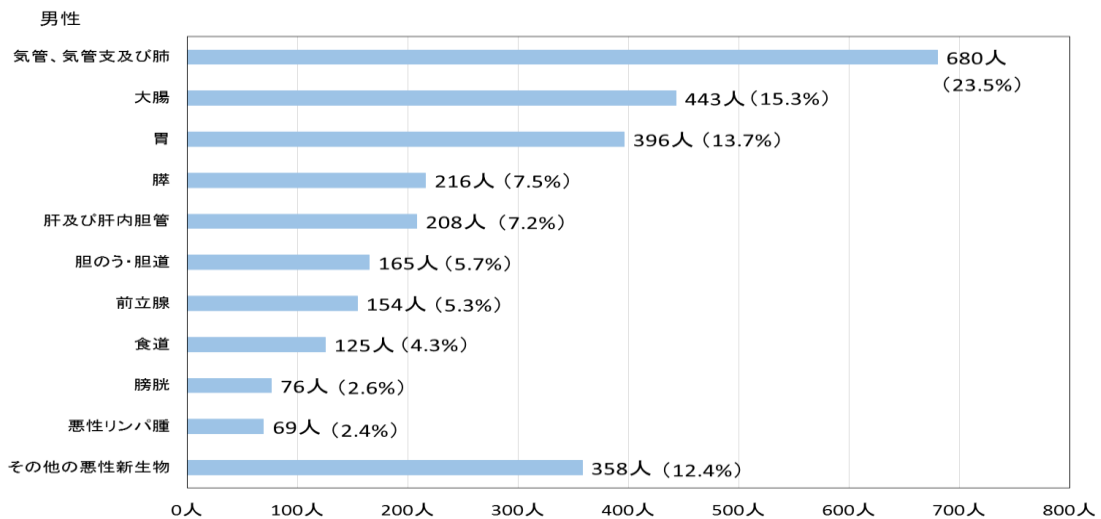
また、たとえ疾病を発症したとしても、早期に発見し適切な治療を行うことで若い世代での死亡を防ぐことが可能となりますが、本県の場合、医療機関への受診の遅れや専門医不足、あるいは医師の偏在などによる診断の遅れのほか、経済的・社会的な問題により医療が継続できない等さまざまな課題が影響しているのではないかと指摘されています。

## ①がん

がんの年齢調整死亡率は、1960年（昭和35年）以降、男女とも横ばいで推移しています。

また、2017年（平成29年）のがんによる死亡者4,986人を性別・部位別にみると、男性では「気管、気管支及び肺」が680人（23.5%）と最も多く、次いで「大腸」が443人（15.3%）、「胃」が396人（13.7%）の順になっており、女性では「大腸」が362人（17.3%）と最も多く、「膵臓」が244人（11.6%）、「胃」が231人（11.0%）の順になっています。

図8 がんの部位別死亡数（2017年（平成29年））



出典：2017年（平成29年）人口動態統計

## ②循環器疾患

脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患の年齢調整死亡率は、年々減少傾向にあります  
が、全国と比べると高い状況が続いています。

2017年（平成29年）の脳血管疾患による死亡者1,700人のうち、脳梗塞が1,081人  
（63.6%）と最も多く、次いで脳内出血が413人（24.3%）、くも膜下出血が168人  
（9.9%）の順になっています。

また、心疾患（高血圧性を除く）死亡者2,621人のうち、心不全が1,171人（44.7%）  
と最も多く、次いで不整脈及び伝導障害が567人（21.6%）、急性心筋梗塞が429人  
（16.4%）の順になっています。

図9 2017年（平成29年）脳血管疾患死亡の内訳

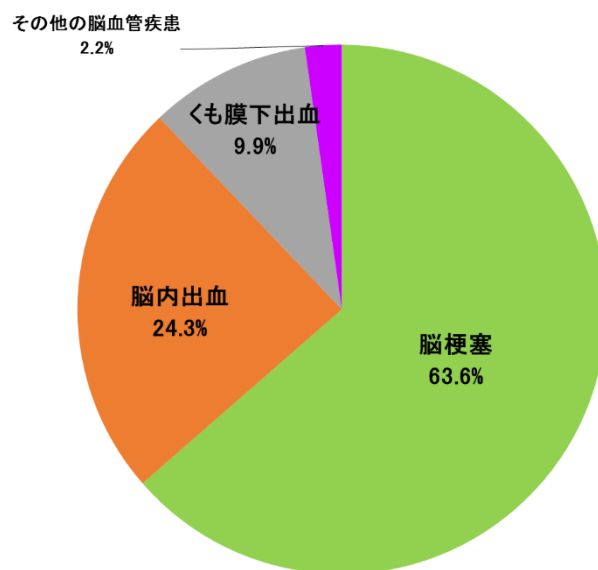


図10 2017年（平成29年）心疾患死亡の内訳

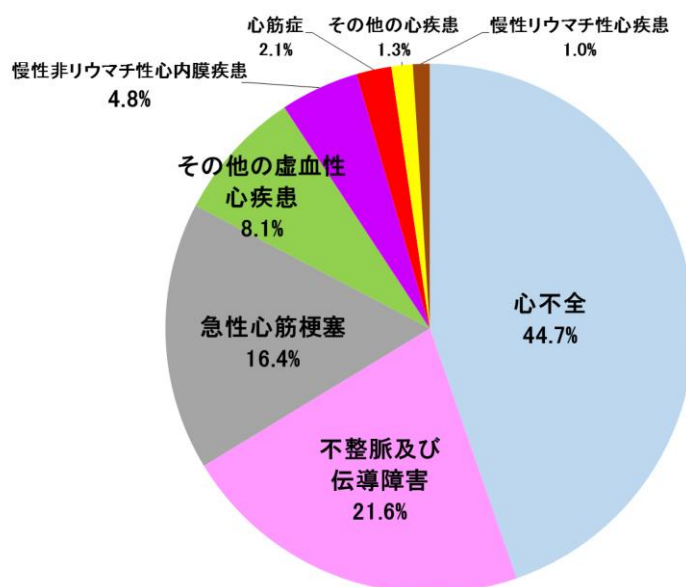


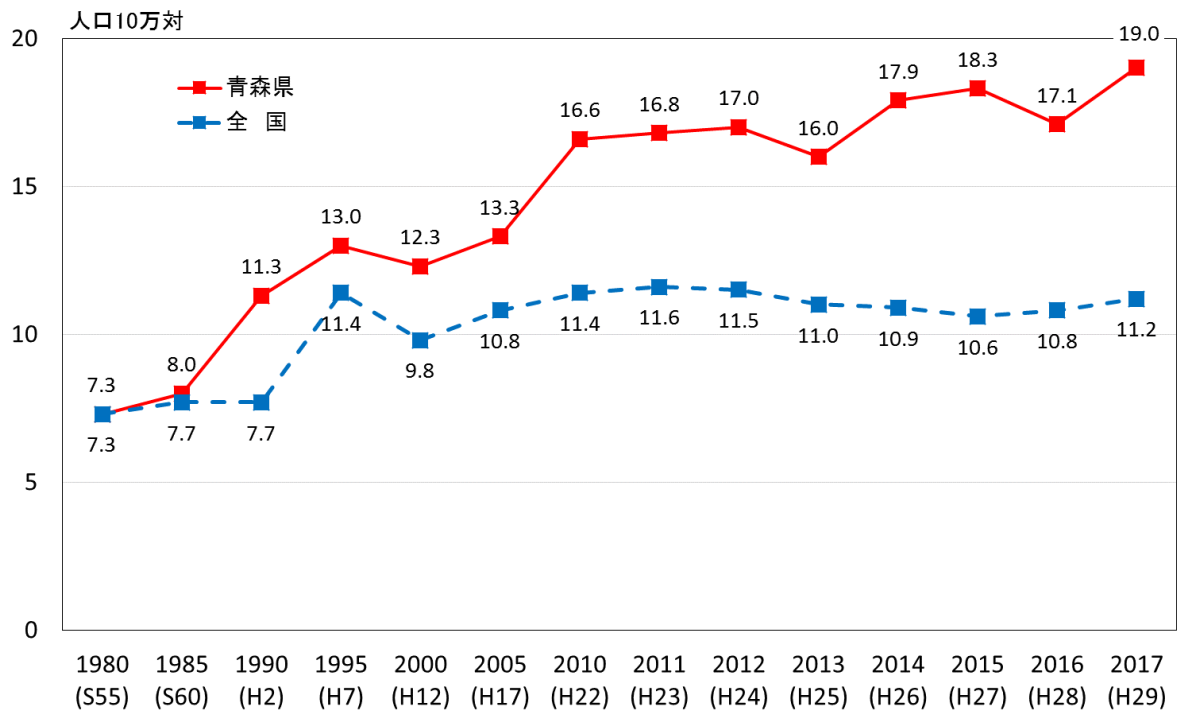
図9～10の出典：2017年（平成29年）人口動態統計



## (2) 糖尿病

糖尿病死亡率は、年々増加傾向にあり、全国と比較すると高い状況が続いています。また、2015年（平成27年）の年齢調整死亡率は、男性が9.3（全国5.5）、女性が3.7（全国2.5）で、男女とも全国ワースト2位となっています。

図11 糖尿病死亡率（人口10万対）の推移



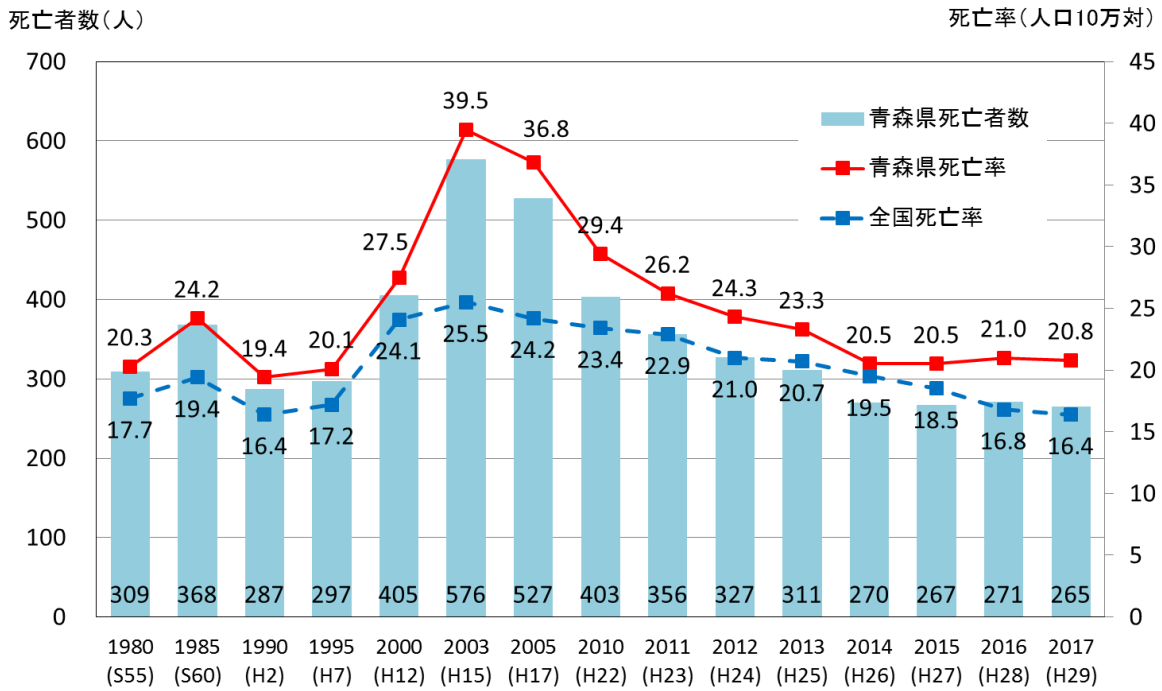
出典：人口動態統計

## (3) 自殺

自殺者数は、2003年（平成15年）の576人をピークに減少傾向にあり、2017年（平成29年）は265人と、ピーク時の半数以下となっています。しかしながら、自殺死亡率（人口10万対）は、2017年（平成29年）は20.8（全国16.8）で、全国ワースト3位となっており、継続した対策の推進が重要となっています。

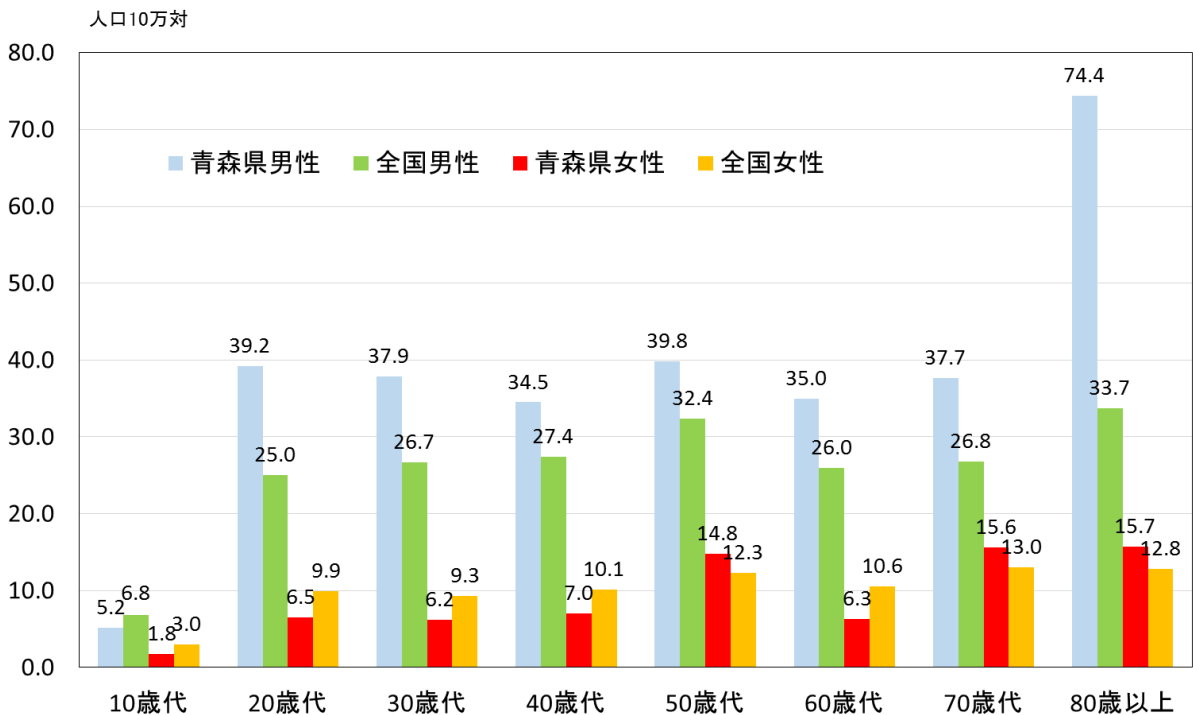
また、2017年（平成29年）の年齢階級別の自殺率をみると、男性は20歳代以降の各年代で全国よりも高く、女性は高年齢層において全国より高くなっています。そのため、各ライフステージに応じたところの健康対策に社会全体で取り組む必要があります。

図 12 自殺死亡数・死亡率（人口 10 万対）の推移（全国・青森県）



出典：人口動態統計

図 13 年齢階級別自殺死亡率（人口 10 万対）（2017 年（平成 29 年））



出典：2017年(平成29年)人口動態統計を用いて、がん・生活習慣病対策課が作成

#### (4) 認知症

2015年（平成27年）1月に策定された「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」では、わが国の認知症の人の数は、2012年（平成24年）で65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されており、高齢化の進展に伴い、2025年頃には約5人に1人に上昇すると見込まれています。この比率を本県に当てはめると、2025年には県内の認知症高齢者は約83,000人になると見込まれます。

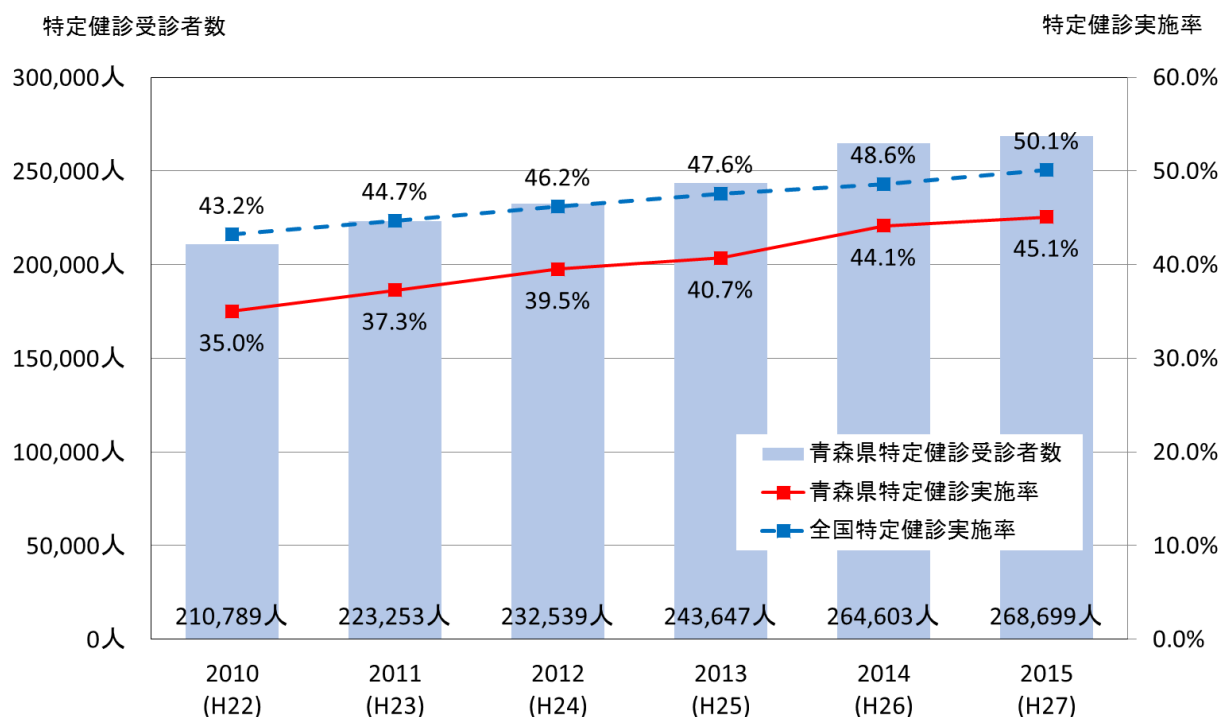
### 3 健診（検診）等の実施状況

#### (1) 受診状況

2008年度（平成20年度）から各医療保険者によって実施された本県の特定健康診査（以下「特定健診」という。）の実施率は、増加傾向にありますが、全国に比べ低い状況です。なお、特定保健指導の実施率は全国に比べ高くなっています。

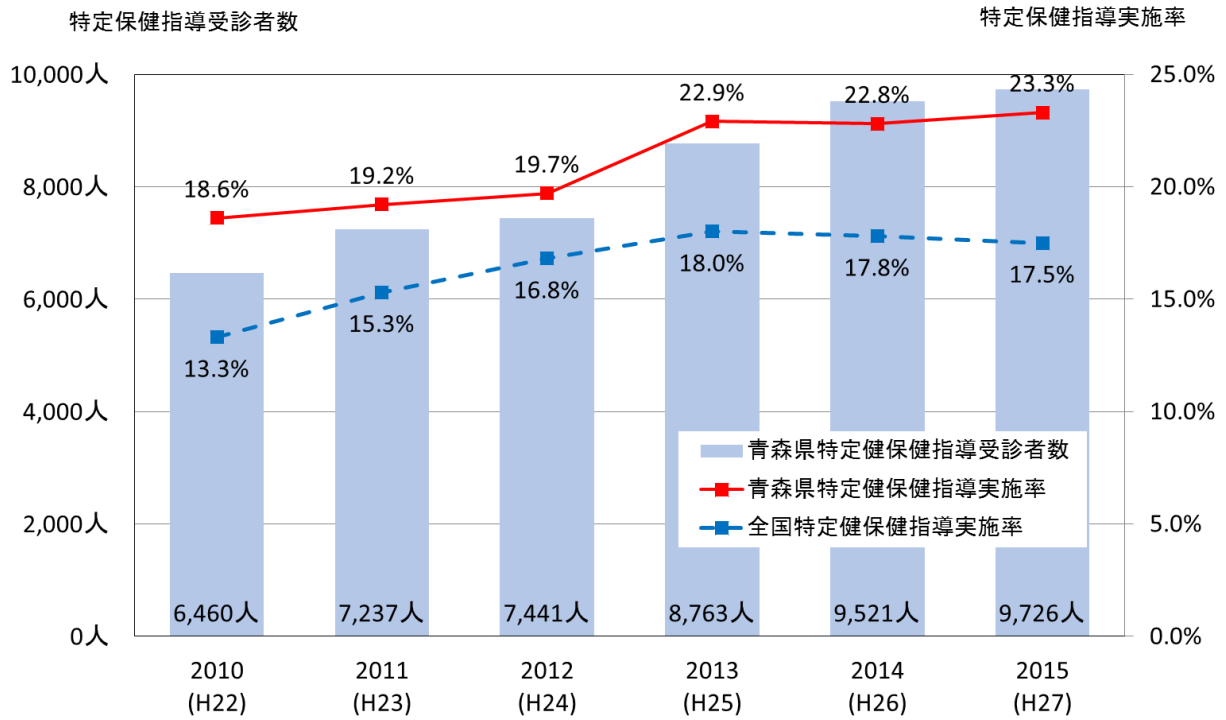
また、がん検診受診率は増加傾向にありますが、ほとんどのがん検診の受診率が50.0%以下にとどまっていることから、がんの早期発見・早期治療のために、受診率を向上させることが課題となっています。

図14 特定健診の実施状況



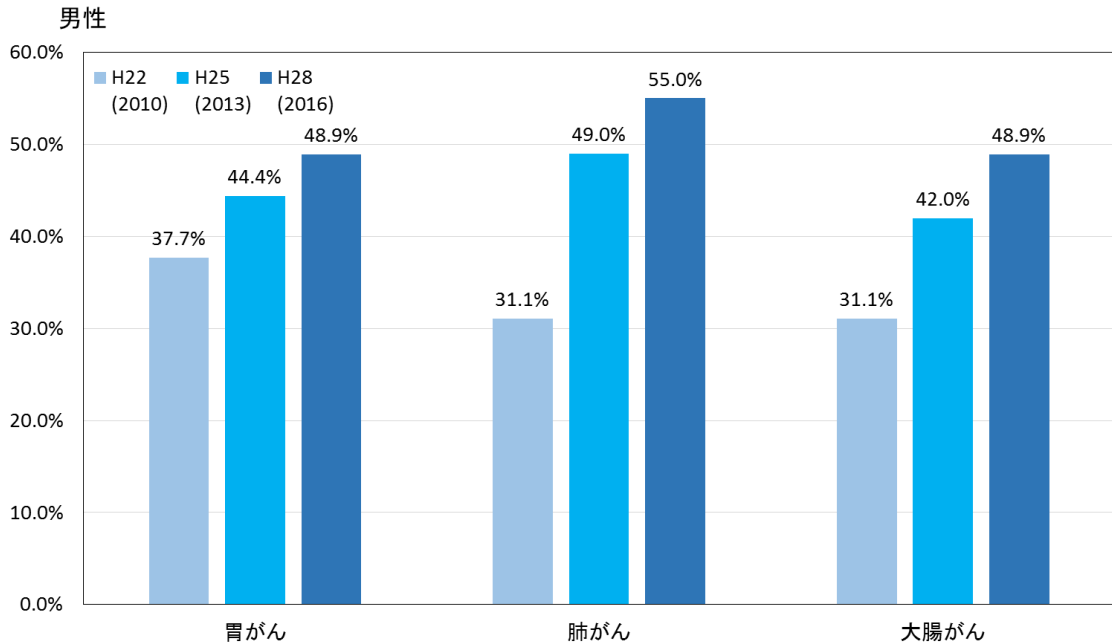
出典：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ」

図 15 特定保健指導の実施状況



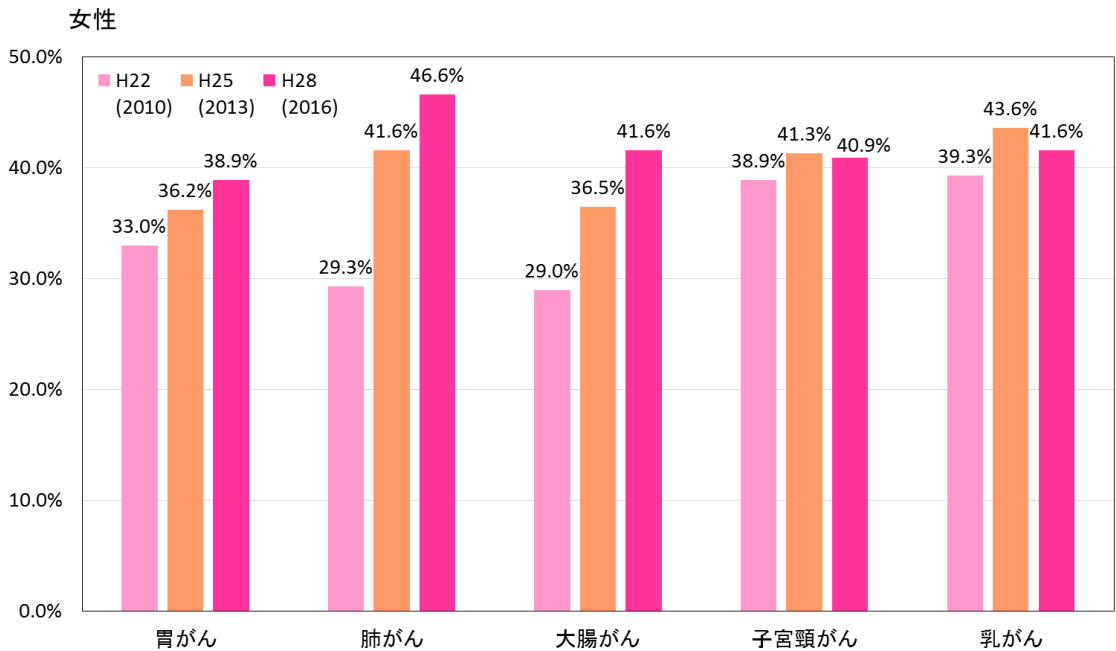
出典：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ」

図 16 青森県のがん検診受診率（男性）



出典：国立がん研究センターが厚生労働省「国民生活基礎調査」を基に算出

図 17 青森県のがん検診受診率（女性）



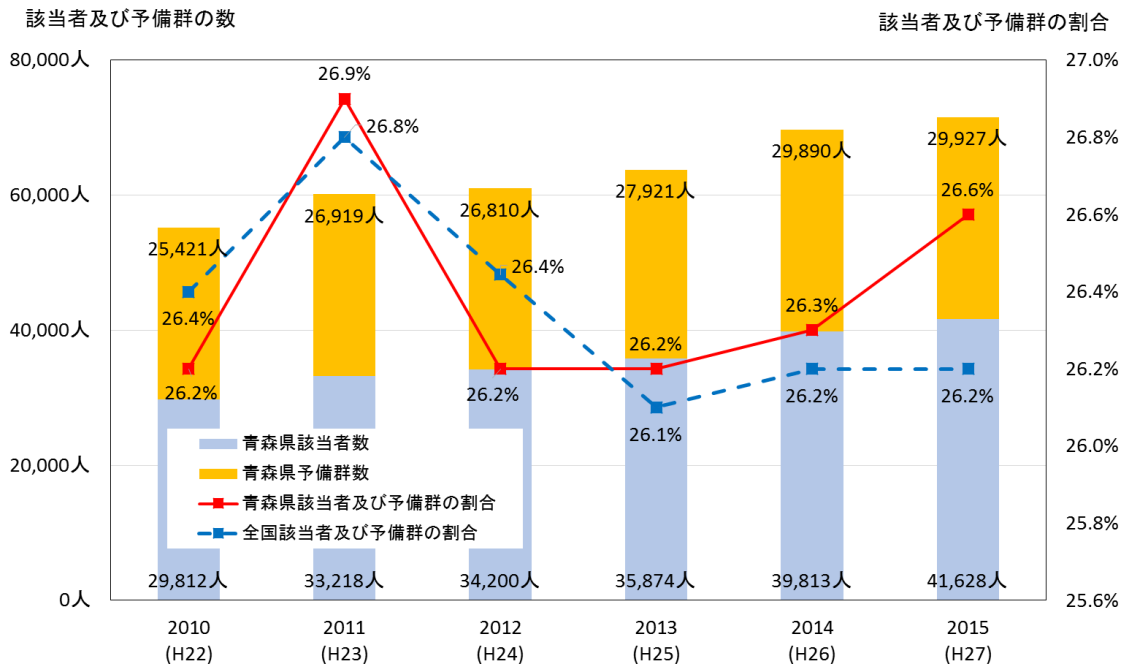
出典：国立がん研究センターが厚生労働省「国民生活基礎調査」をもとに算出

(2) メタボリックシンドロームの該当者等

本県の特定健康診査受診者のうちメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は、全国とほぼ同様の 26.0%台で推移しています。

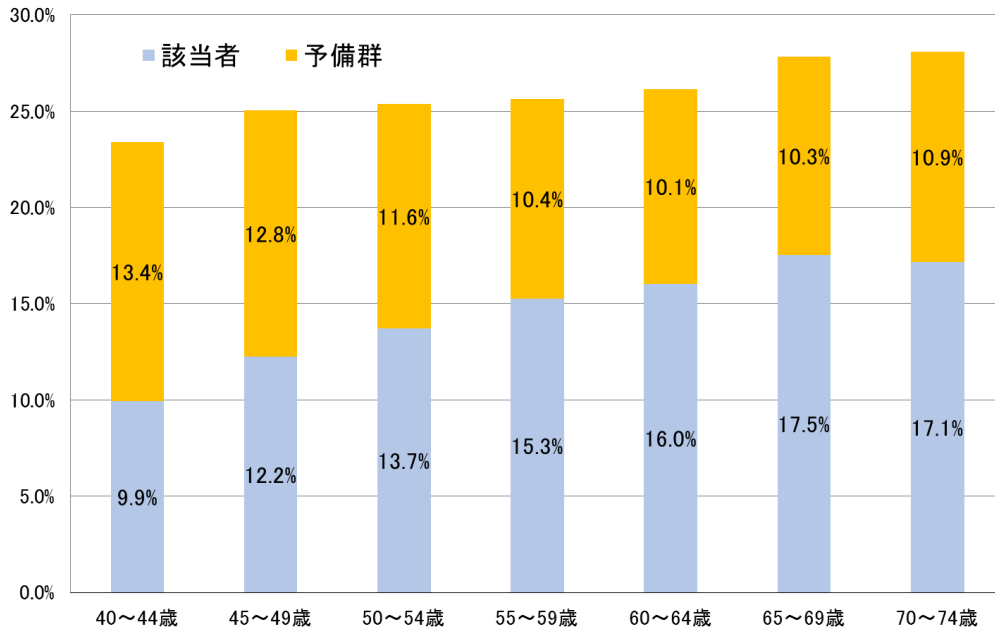
また、2015 年度（平成 27 年度）の本県のメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合を年代別に見てみると、加齢とともにその割合は高くなっています。

図 18 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の状況



出典：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ」

図 19 年齢別メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合

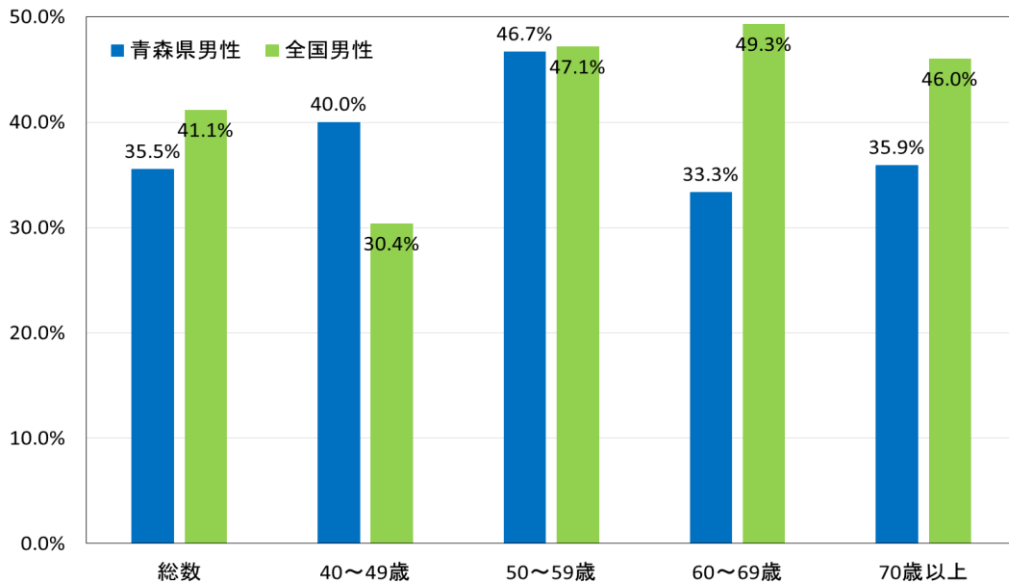


出典：2015年度（平成27年度）市町村国民健康保険特定健康診査データ

(3) 血圧

本県の2016年度（平成28年度）の高血圧者の割合をみると、男性で35.5%、女性で27.8%となっており、男性は40歳代で全国より高くなっていますが、女性は全年代で全国より低くなっています。

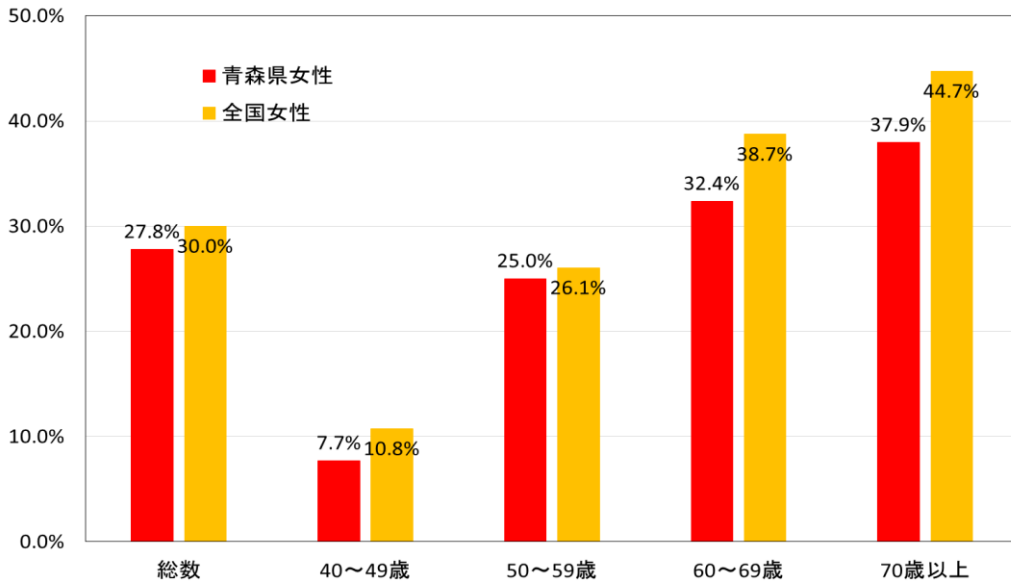
図 20 年齢階級別高血圧者の割合（男性）



出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査

標本数	総数	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	107人中 38人	15人中 6人	15人中 7人	27人中 9人	39人中 14人
全国	4,973人中 2,046人	616人中 187人	628人中 296人	1,396人中 688人	1,709人中 786人

図 21 年齢階級別高血圧者の割合（女性）



出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査

標本数	総数	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	144人中 40人	13人中 1人	16人中 4人	34人中 11人	58人中 22人
全国	7,149人中 2,145人	976人中 105人	1,044人中 272人	1,884人中 730人	2,235人中 1,000人

## 4 県民の生活習慣

### （1）栄養・食生活

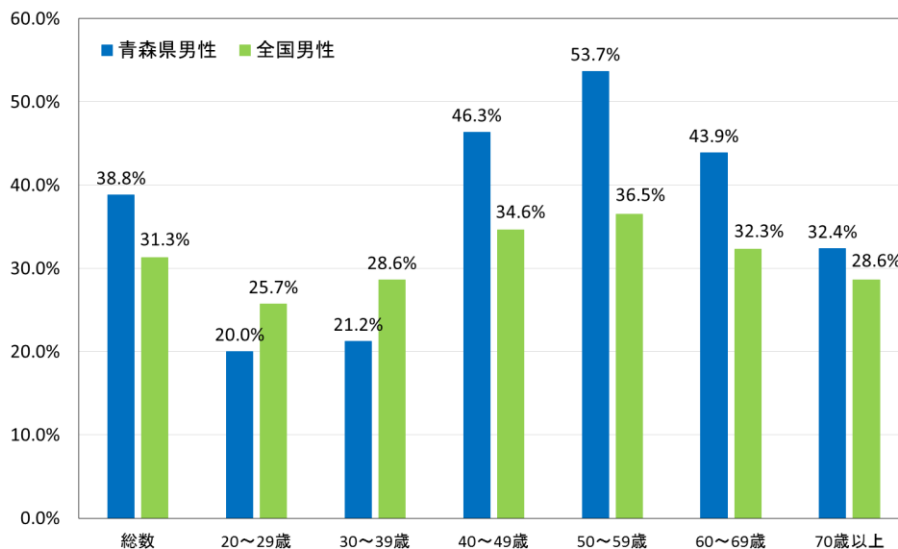
成人の肥満者（BMI25.0以上の人）の割合は、2016年度（平成28年度）で男性が38.8%、女性が24.7%となっており、全国（男性31.3%、女性20.6%）と比較すると男女とも高くなっています。

2017年度（平成29年度）の肥満傾向児（性別・年齢別・身長別標準体重から求めた肥満度がプラス20%以上の者）の割合は、男女ともに全ての学年で全国よりも高く、子どもの頃からの肥満予防対策が課題となっています。

また、成人の食塩摂取量は、2016年度（平成28年度）で男性11.3g、女性9.7gと全国（男性10.8g、女性9.2g）より多く、一方で野菜摂取量は男性305.9g、女性295.4gと全国（男性283.7g、女性270.5g）より多いものの、目標値の350.0gに達していないことから、いずれも適正な摂取が求められています。



図22 成人の肥満者の割合（男性）

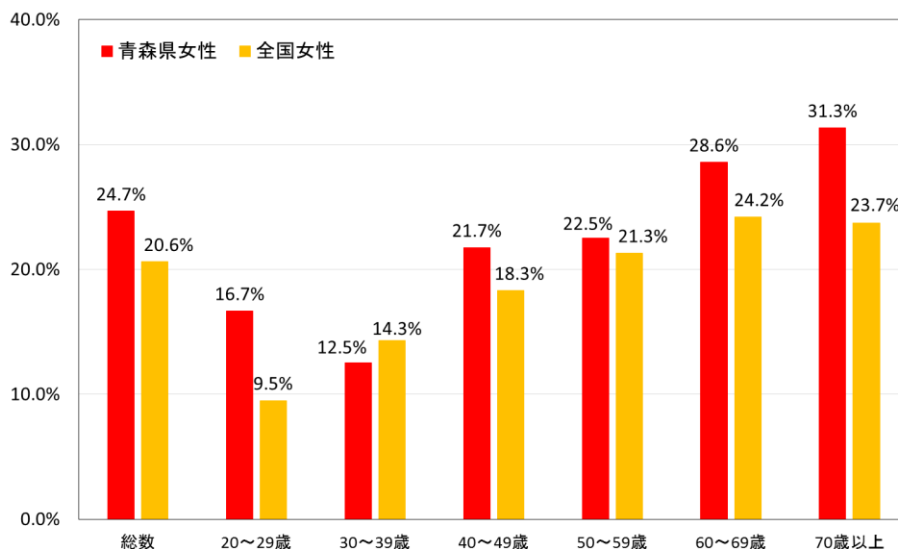


出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査（※）

標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	250人中 97人	10人中 2人	33人中 7人	41人中 19人	41人中 22人	57人中 25人	68人中 22人
全国	8,469人中 2,687人	569人中 140人	978人中 296人	1,308人中 461人	1,226人中 463人	2,031人中 665人	2,357人中 662人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

図23 成人の肥満者の割合（女性）



出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査（※）

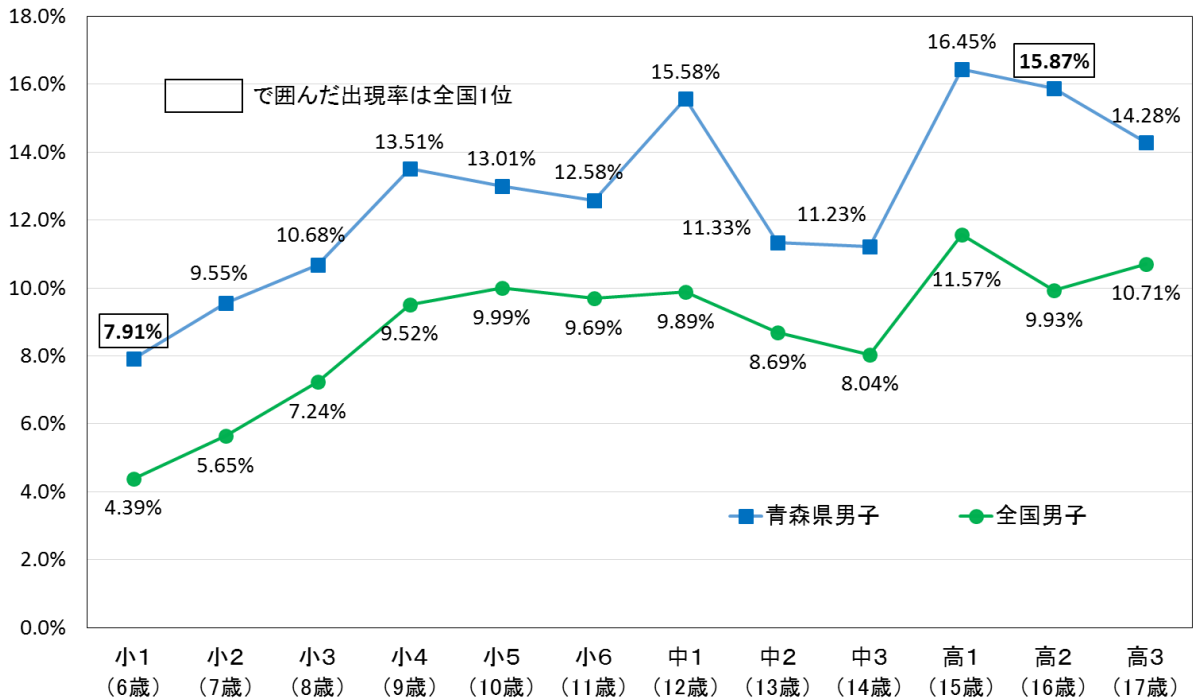
標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	288人中 71人	24人中 4人	32人中 4人	46人中 10人	40人中 9人	63人中 18人	83人中 26人
全国	10,372人中 2,212人	616人中 55人	1,125人中 162人	1,539人中 293人	1,576人中 352人	2,443人中 609人	3,073人中 741人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。



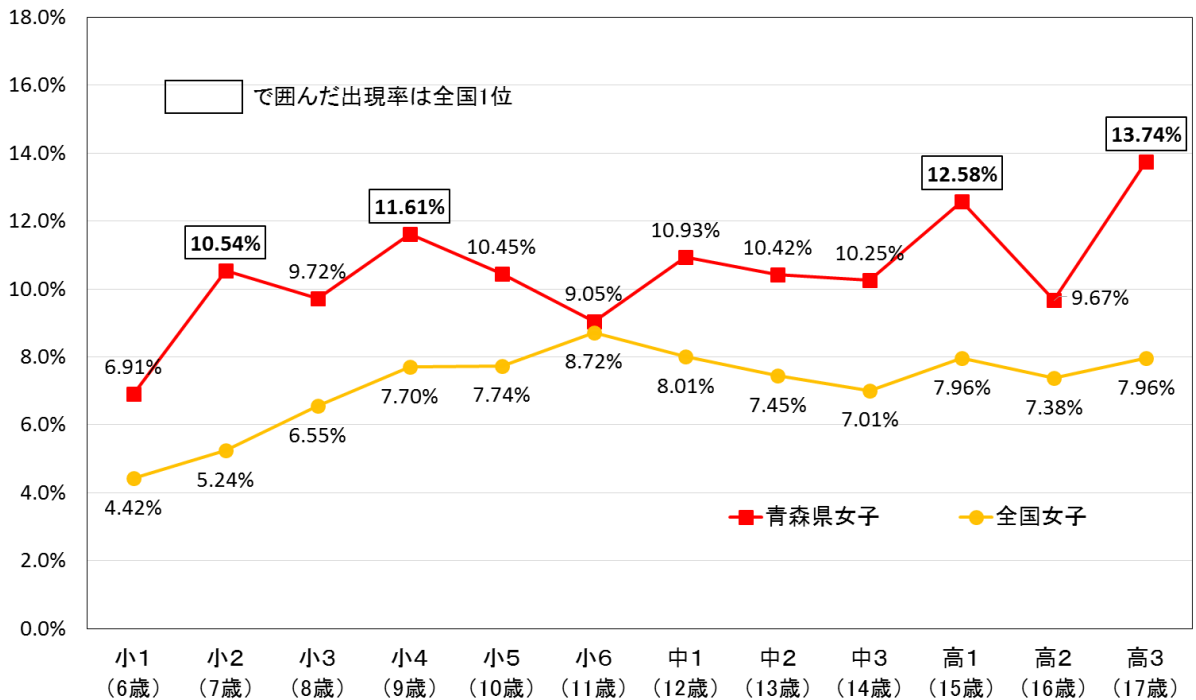
図 24 肥満傾向児の出現率

男子



出典: 2017年度(平成29年度)学校保健統計調査

女子



出典: 2017年度(平成29年度)学校保健統計調査

表3 成人の食塩摂取量

	青森県	全国
男性	11.3g	10.8g
女性	9.7g	9.2g
男女計	10.5g	9.9g

表4 成人の野菜摂取量

	青森県	全国
男性	305.9g	283.7g
女性	295.4g	270.5g
男女計	300.2g	276.5g

表3～4の出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査  
全 国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査

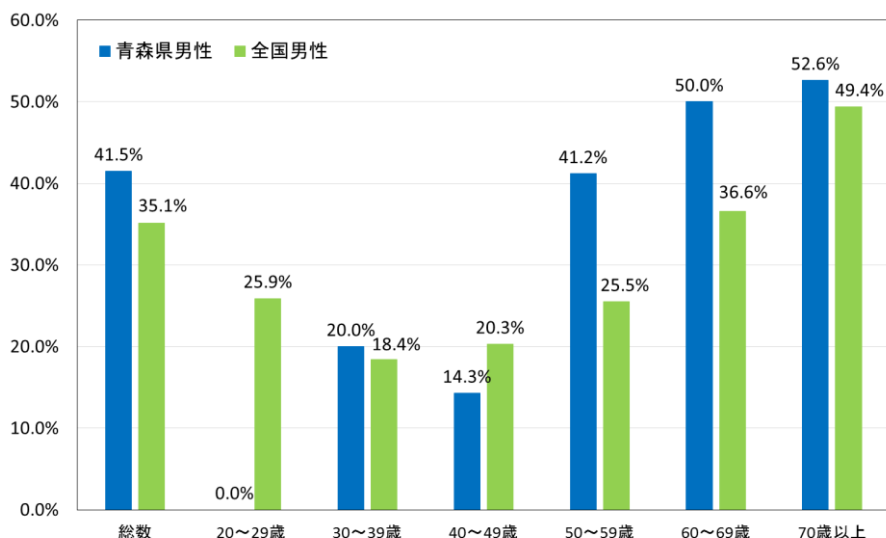
## （2）身体活動・運動

運動習慣のある者（週2回以上30分以上1年以上継続的に運動している者）の割合は、2016年度（平成28年度）で男性が41.5%と全国（35.1%）より高くなっていますが、女性は27.1%と全国（27.4%）とほぼ同じです。年代別にみると、男性は40歳代、女性は60歳代以上で全国より低く、この年代の運動習慣者の増加が求められています。

成人の平均歩行数は、2016年度（平成28年度）で男性が6,309歩、女性が5,365歩で全国（男性6,984歩、女性6,029歩）に比べ少ない状況にあります。



図 25 運動習慣のある者の割合（男性）

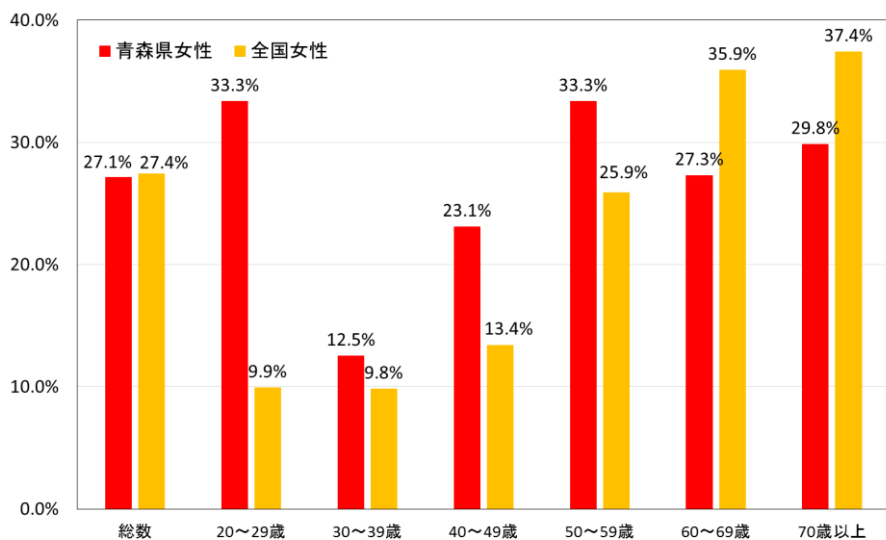


出典：青森県～平成28年度青森県県民健康・栄養調査 全国～平成28年国民健康・栄養調査（※）

標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	106人中 44人	1人中 0人	10人中 2人	14人中 2人	17人中 7人	26人中 13人	38人中 20人
全国	5,773人中 1,882人	305人中 69人	547人中 102人	783人中 151人	762人中 189人	1,534人中 532人	1,842人中 839人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

図 26 運動習慣のある者の割合（女性）



出典：青森県～平成28年度青森県県民健康・栄養調査 全国～平成28年国民健康・栄養調査（※）

標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	140人中 38人	6人中 2人	16人中 2人	13人中 3人	15人中 5人	33人中 9人	57人中 17人
全国	7,831人中 2,009人	364人中 38人	807人中 80人	1,098人中 140人	1,157人中 269人	1,997人中 641人	2,408人中 841人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

表5 成人の平均歩行数

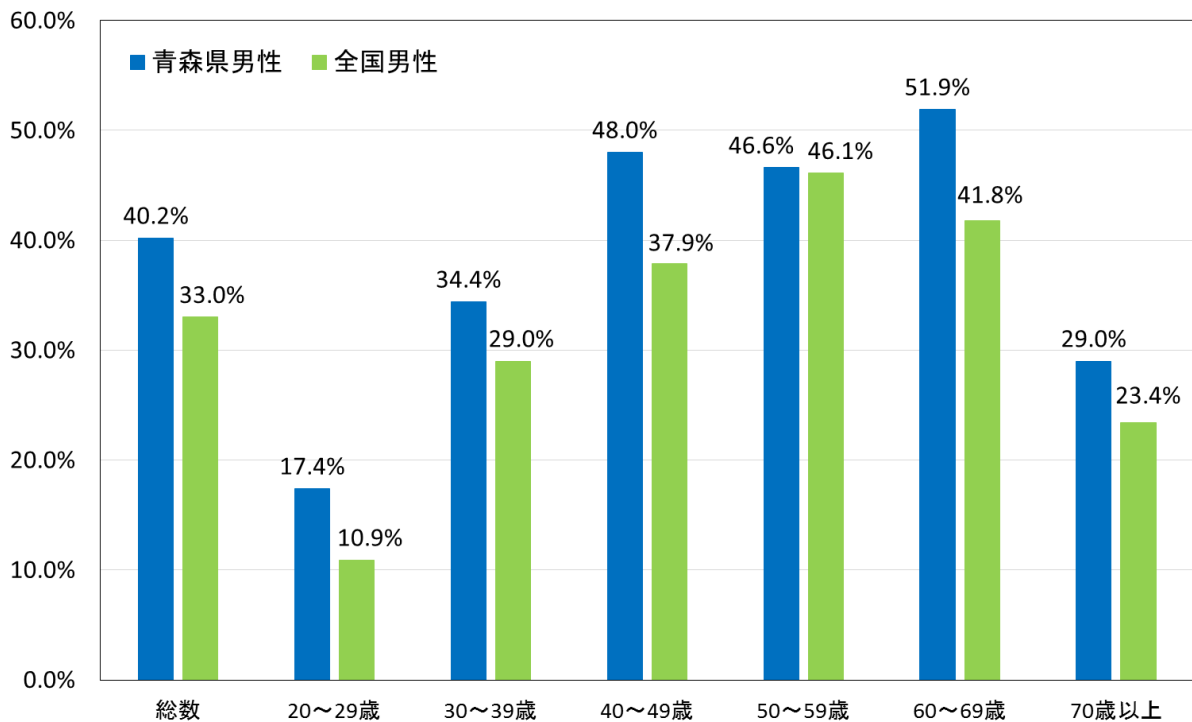
	青森県	全国
男性	6,309 歩	6,984 歩
女性	5,365 歩	6,029 歩

出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査  
全 国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査

(3) 飲酒

飲酒習慣者（週3日以上1日1合以上飲酒する者）の割合は、2016年度（平成28年度）で男性が40.2%、女性は8.8%と全国（男性33.0%、女性8.6%）と比較すると男性が高い状況にあります。男性は、全ての年代で、女性は20歳代、30歳代、70歳以上で全国より高くなっています。

図27 飲酒習慣者の割合（男性）

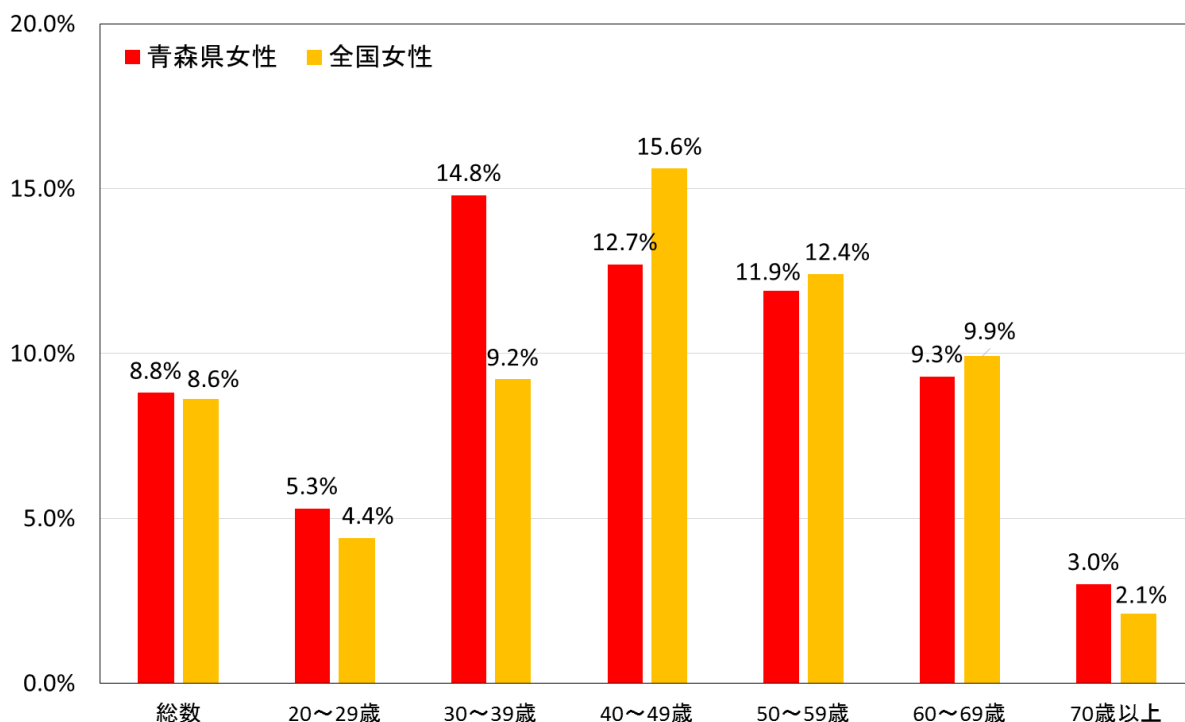


出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査（※）

標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	413人中 166人	23人中 4人	61人中 21人	75人中 36人	73人中 34人	81人中 42人	100人中 29人
全国	11,802人中 4,022人	893人中 101人	1,470人中 446人	1,939人中 758人	1,770人中 819人	2,665人中 1,158人	3,065人中 740人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

図 28 飲酒習慣者の割合（女性）



出典：青森県～2016年度（平成28年度）青森県県民健康・栄養調査 全国～2016年（平成28年）国民健康・栄養調査（※）

標本数	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
青森県	468人中 41人	38人中 2人	61人中 9人	71人中 9人	67人中 8人	97人中 9人	134人中 4人
全国	13,805人中 1,036人	968人中 39人	1,590人中 151人	2,181人中 311人	2,049人中 218人	3,013人中 246人	4,004人中 71人

※ 国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

#### （４）喫煙

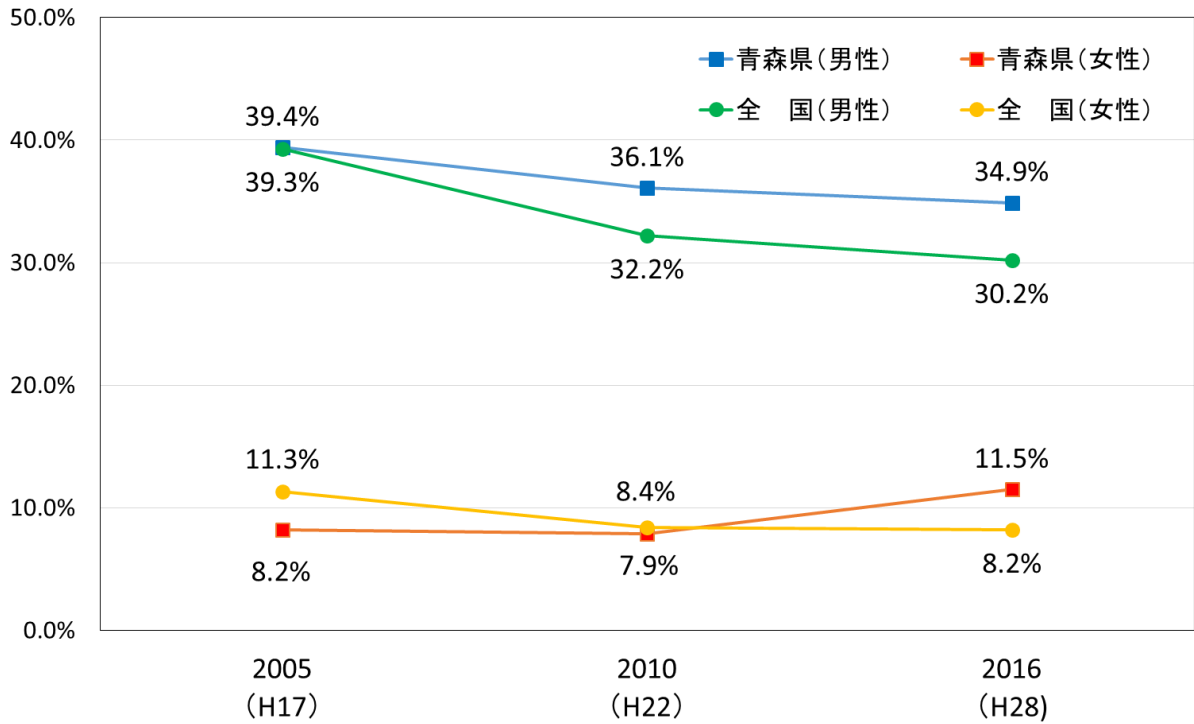
青森県県民健康・栄養調査によると、喫煙習慣のある者の割合は、2016年度（平成28年度）で男性が34.9%、女性が11.5%となっています。男性の喫煙率は減少傾向にあるものの、女性の喫煙率は2010年度（平成22年度）よりも増加しており、男女とも全国（男性30.2%、女性8.2%）より高い状況にあります。

一方、公益財団法人青森県総合健診センターの健診受診者の喫煙率は、2016年度（平成28年度）で男性が32.1%、女性が9.0%で、2010年度（平成22年度）（男性38.5%、女性10.3%）と比較すると、いずれも減少傾向にあります。

また、未成年者の喫煙率は、どの学年でも低くなっており、特に高校3年生が顕著に減少しています。

なお、受動喫煙防止のために施設内禁煙にしている施設の割合は、県庁舎、文化施設、教育・保育施設で90%を超えるなど2011年度（平成23年度）の調査と比較すると増加しています。

図 29 喫煙率の推移（全国・青森県）



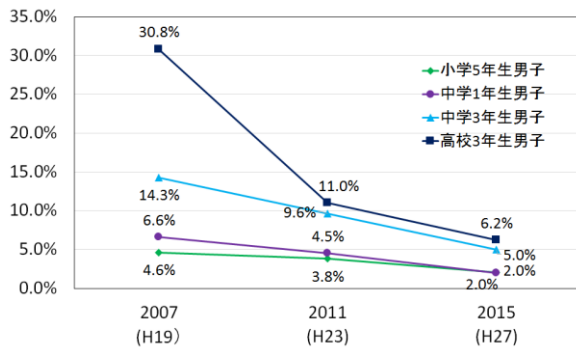
出典：青森県～青森県県民健康・栄養調査 全国～国民健康・栄養調査（※）

標本数	2005 (H17)		2010 (H22)		2016 (H28)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
青森県	142 人中 56 人	220 人中 18 人	335 人中 121 人	419 人中 33 人	418 人中 146 人	469 人中 54 人
全国	3,448 人中 1,356 人	4,048 人中 459 人	3,664 人中 1,180 人	4,202 人中 351 人	11,817 人中 3,589 人	13,821 人中 1,038 人

※2016年（平成28年）国民健康・栄養調査の結果は全国補正值のため、該当人数を対象人数で除した割合とは一致しません。

図 30 未成年者の喫煙経験者の割合の推移（青森県）

（男子）



（女子）

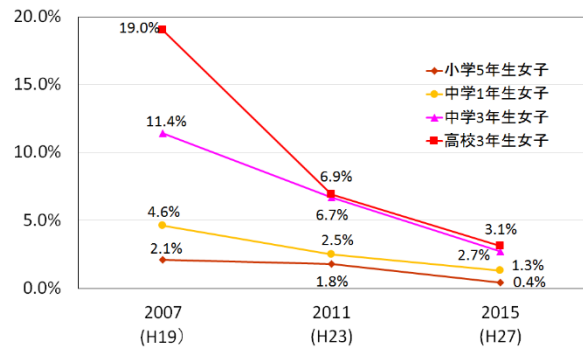
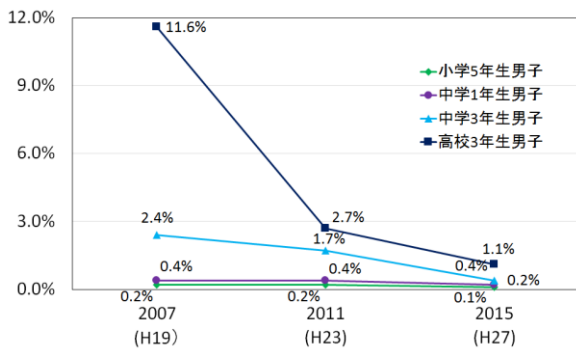


図 31 未成年者の喫煙習慣者の割合の推移（青森県）

（男子）



（女子）

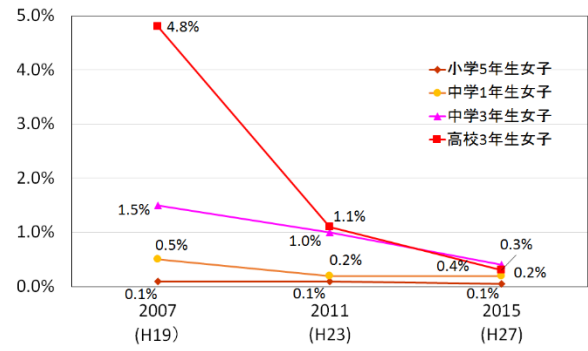
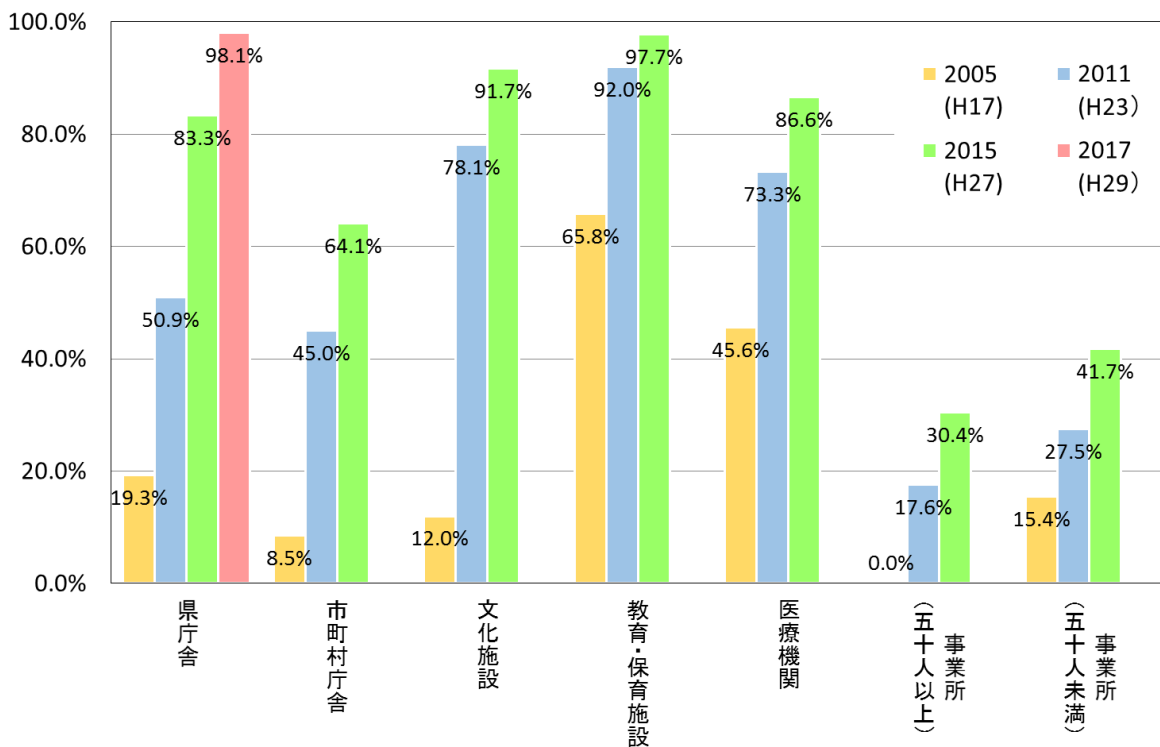


図 30～31 出典：公立小・中・高等学校における児童生徒の喫煙等状況調査（青森県未成年者喫煙飲酒状況調査）

図 32 施設内禁煙としている施設の割合



出典：2005年度（平成17年度）～喫煙対策に関する調査

2011年度（平成23年度）・2015年度（平成27年度）～青森県受動喫煙防止対策実施状況調査

2017年度（平成29年度）～がん・生活習慣病対策課調べ

### （5）歯・口腔の健康

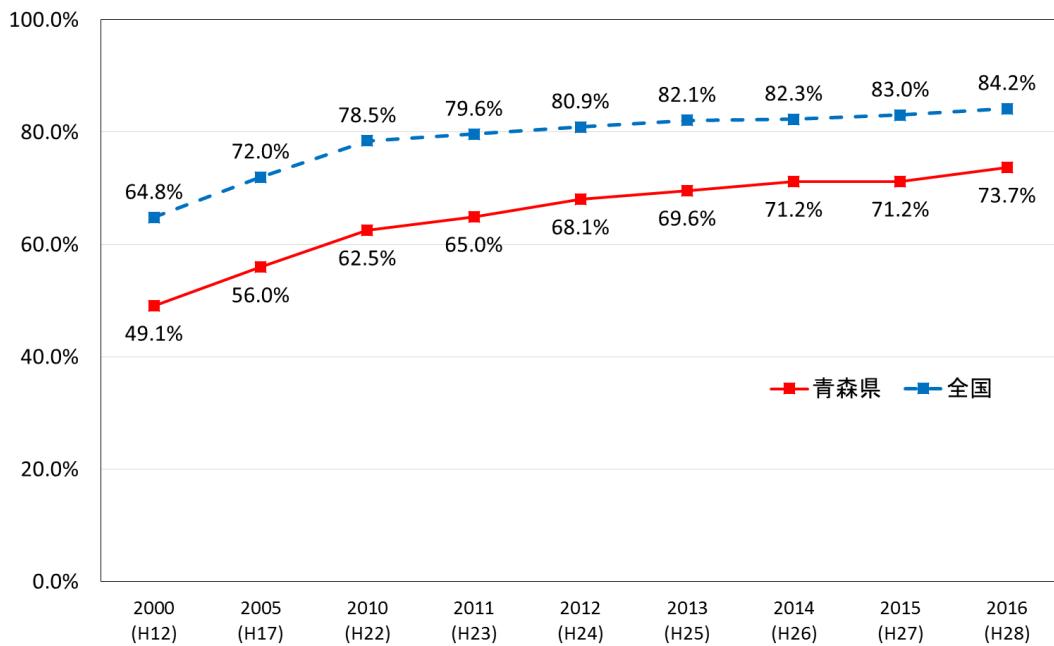
むし歯（う蝕）のない3歳児の割合は、年々増加しているものの、2016年度（平成28年度）は73.7%で全国（84.2%）と比較して低い状況が続いています。12歳児の1人あたりの平均う蝕数は、年々減少していますが、2017年度（平成29年度）は1.25本で全国

(0.82本)と比較して多くなっています。幼児期のう歯保有者の割合及び学童期の1人あたりのう歯の本数は改善していますが、全国との格差が課題となっています。

40歳代で進行した歯周炎を有する人の割合は全国より高く、40歳代以降の歯周炎の予防が課題となっています。

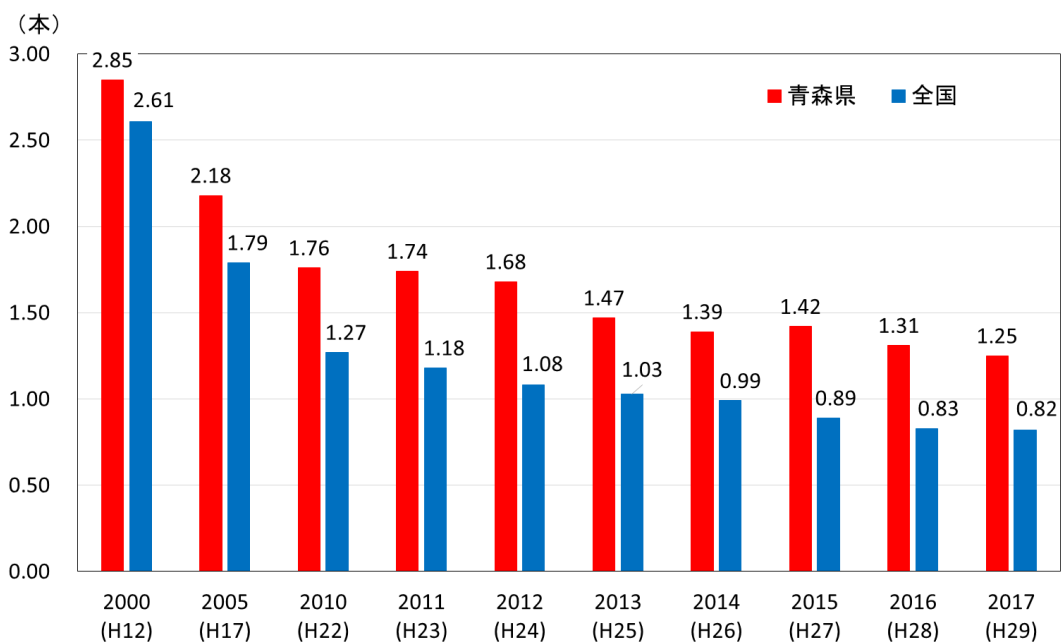
また、60歳で24歯以上、80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合は、5年前に比べ増加していますが、全国との格差が課題となっています。

図 33 3歳児でう蝕がない者の割合



出典: 幼児歯科健康診査

図 34 12歳児の一人平均う歯数



出典: 学校保健統計調査



図 35 40歳代で進行した歯周炎を有する人の割合

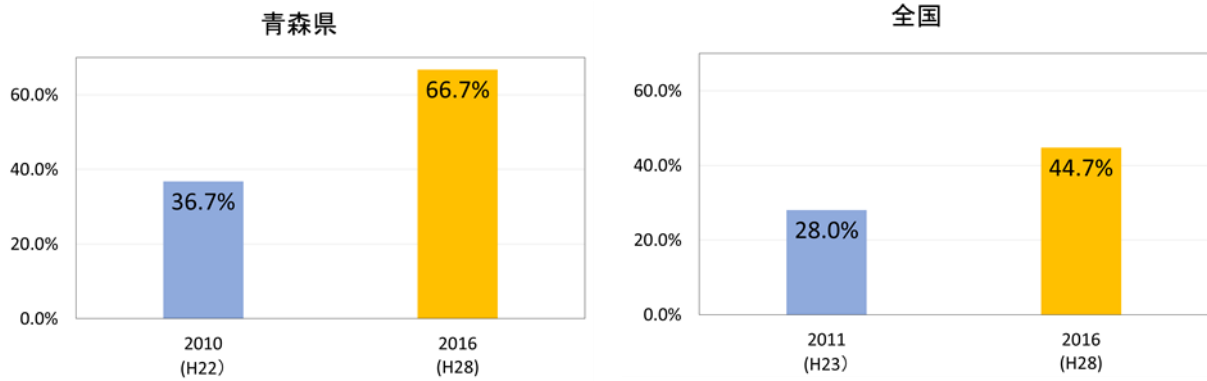


図 36 40歳で喪失歯のない人の割合

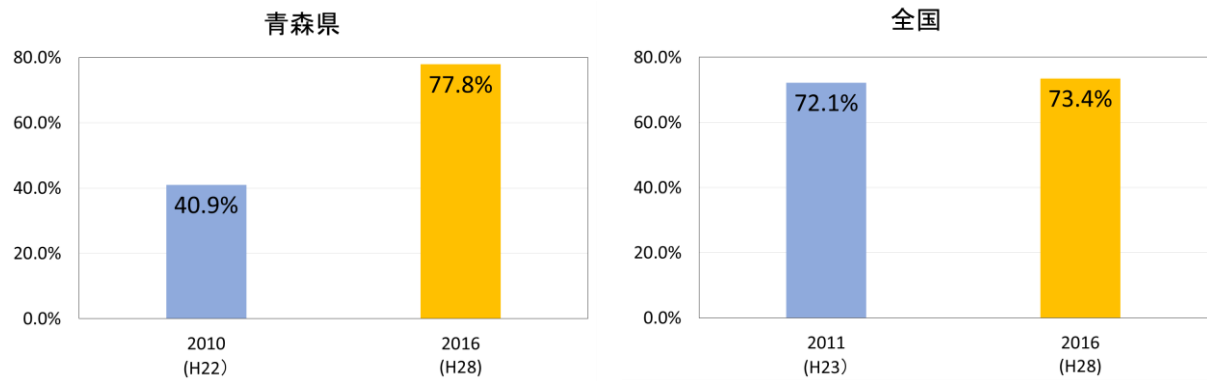


図 37 60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合

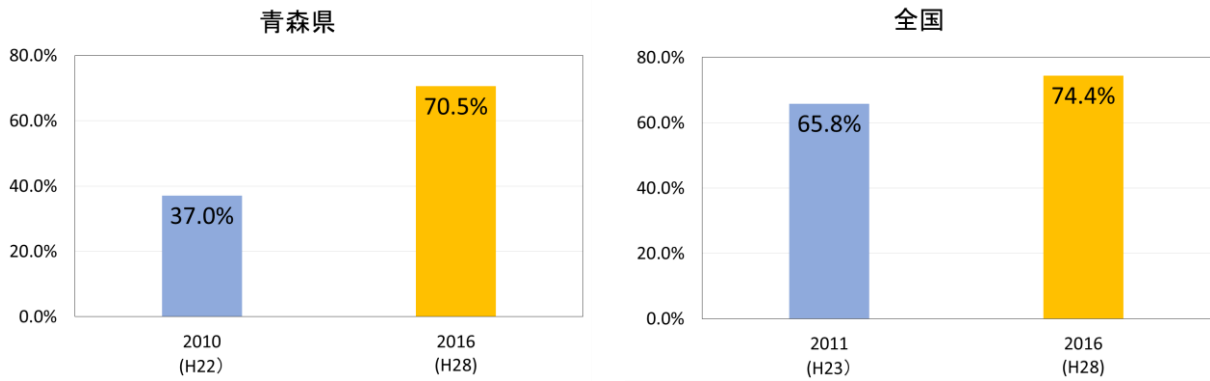


図 38 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合

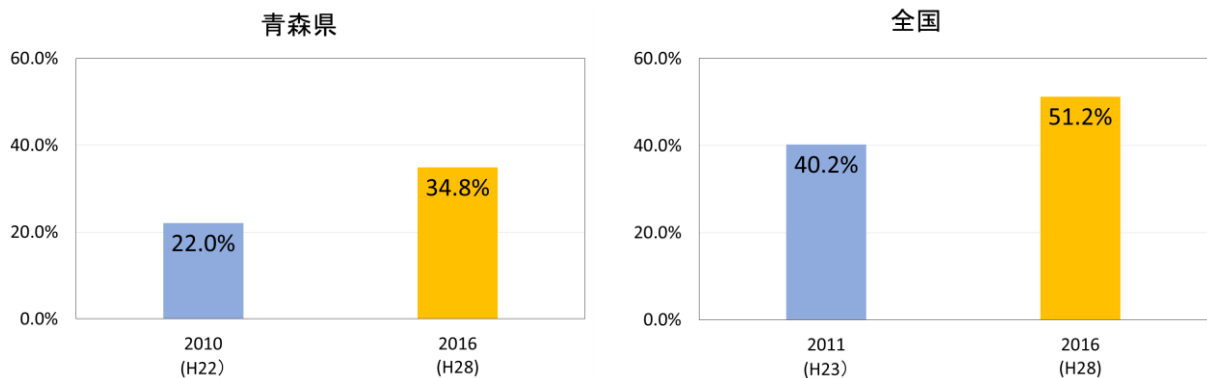
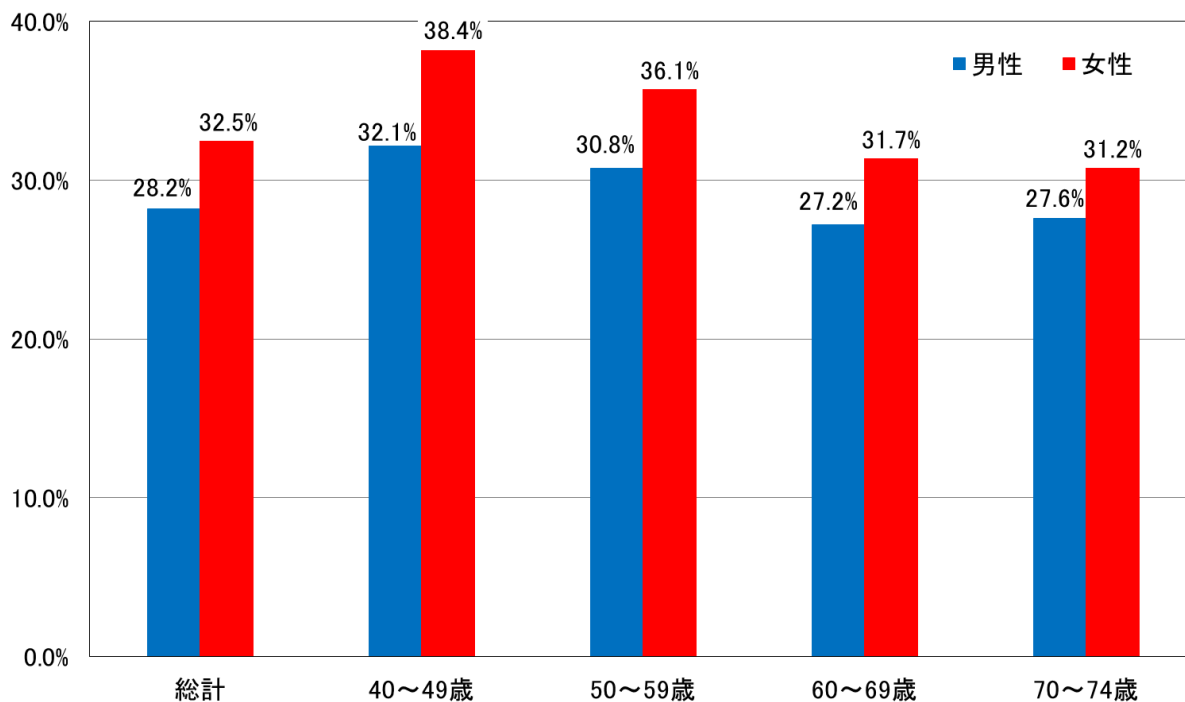


図 35～38 の出典：青森県～青森県歯科疾患実態調査 全国～歯科疾患実態調査

(6) 休養（睡眠）

睡眠による休養が十分にとれていない者の割合は 2016 年度（平成 28 年度）で男性が 28.2%、女性が 32.5%となっており、年代別では 40 歳代の割合が最も高くなっています。

図 39 睡眠による休養が十分にとれていない者の割合



出典：2016年度（平成28年度）市町村国民健康保険特定健康診査データ

標本数	総数	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳
男性	37,885人中 10,683人	3,351人中 1,077人	4,760人中 1,464人	18,124人中 4,927人	11,650人中 3,215人
女性	49,575人中 16,108人	3,095人中 1,187人	5,943人中 2,145人	25,293人中 8,027人	15,244人中 4,749人